

大災害への備えについて
～地域や家庭の防災力を高めよう！～

調査報告書

令和6年12月

富山県消費者協会・富山県消費生活研究グループ連絡協議会

はじめに

富山県消費者協会 会長 尾畑 納子

新型コロナウイルス感染症が徐々に沈静化しはじめたかと思われた矢先、今年元日、私たちは能登半島を震源とした震度7を観測する大きな地震に見舞われました。隣接するわが富山県でも最大震度5強の揺れが襲い、氷見市をはじめとして、県西部地区では液状化や土砂崩れなど、多くの被害が発生しました。改めて今回の地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、東日本大震災をはじめ近年の大雨による河川氾濫、土砂崩れなどの甚大な自然災害の多発は、私たちの消費生活にも大きな影響を及ぼします。こうしたことから、平成23・24年度に行った「災害に対する意識や備え等」の調査結果を参考に、本年度のアンケート調査では、今回の地震体験を契機に、県民の皆さんの被害状況、日頃からの災害に対する備え、防災と自助、共助、公助に関する意識、さらには災害による消費生活への影響などの調査を行いました。また、今回のアンケートからWeb入力の手法も取り入れ、幅広い年代の皆様から協力をいただいた結果をまとめたものです。

この報告書が、消費者、事業者、行政のそれぞれ皆さんにとって、「災害への備え」として有効に活用され、安全・安心な地域づくりの一助となれば幸いです。

富山県消費生活研究グループ連絡協議会 会長 平野 靖子

近年、地震・豪雨・洪水・山火事・台風などの災害が頻発しています。

今年1月に発生した能登半島地震では、これまで災害が少ないと言われていた富山県内においても甚大な被害に見舞われました。私たちを取り巻く環境は、いつ何が起こるか分からない状況にあります。そのため、「災害が明日起きるかもしれない」と考え、災害時の命を守る一人ひとりの防災対策が必要となります。

今回のアンケート調査では、消費者の災害・防災に関する意識や家庭での災害に対する備えの課題が見えてきました。また、災害時には、「自分の身は自分で守る」という「自助」の対応以外にも、地域の皆さんと協力し助け合う「共助」が重要だと認識している人が多いこともわかりました。

皆さんも、このアンケート調査結果をご覧ください、家庭での災害への備えについて考えていただく良い機会となれば幸いです。

本アンケートの実施にご協力をいただきました、役員、参与団体、県内の大学生や地域の皆様に心よりお礼申し上げます。

目 次

I 調査の概要

調査目的、調査時期、調査対象、調査方法 1

II 回答者の属性

性別、年代、職業、お住まいの地域、市町村別 1

III 調査結果の概要

1. 令和6年能登半島地震に関して

(問1) 能登半島地震による被害の有無や影響等についてお答えください。 2

(問2) 能登半島地震によって、あなたは物質的な面や精神的な面でどのような影響を受けましたか。 4

2. 災害・防災の意識などについて

(問3) あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。 5

(問4) あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。 6

【参考】お住まいの地域と問3及び問4の関連 7

3. 災害に対する備えに関して

(問5) 災害への備えとして、あなたの準備・対策の状況を、能登半島地震発生前と発生後についてお答えください。 8

(問6) 非常用持ち出し品として準備しているものは何ですか。 9

(問7) あなたのお宅では、災害時に備えた食品や飲料水の家庭備蓄として何日分を準備していますか。 10

(問8) あなたのお宅では、大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えは、どの程度していますか。 12

(問9) お住まいの地域のハザードマップの内容を知っていますか。 13

(問10) お住まいの地域の防災マップの内容を知っていますか。 14

(問11) 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。 15

4. 自助、共助、公助に対する考え方について

(問12) 自然災害が起こった時に、「自助」「共助」「公助」のどれに重点を置くべきと考えますか。 16

(問13) 防災について、地域で必要な取組みは何だと思えますか。 17

5. 行政に望むこと

(問14) 防災について、特に行政に望むことは何ですか。 18

6. エシカル消費について

(問15) あなたは、エシカル消費という言葉を知っていますか。 19

(問16) 「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。 20

IV まとめ 21

V 回答者の意見

1. 設問ごとの「その他」の意見 26

2. 自由意見 35

VI 調査票 44

大災害への備えについて ～ 地域や家庭の防災力を高めよう！ ～

I 調査の概要

◆調査目的

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、これまで比較的災害が少ないとされてきた富山県内でも震度5強を観測するなど、甚大な被害に見舞われました。

震災を機に、私たちは、災害への備え・対応などについて、一人ひとりが改めて考え、取り組んでいく必要があります。

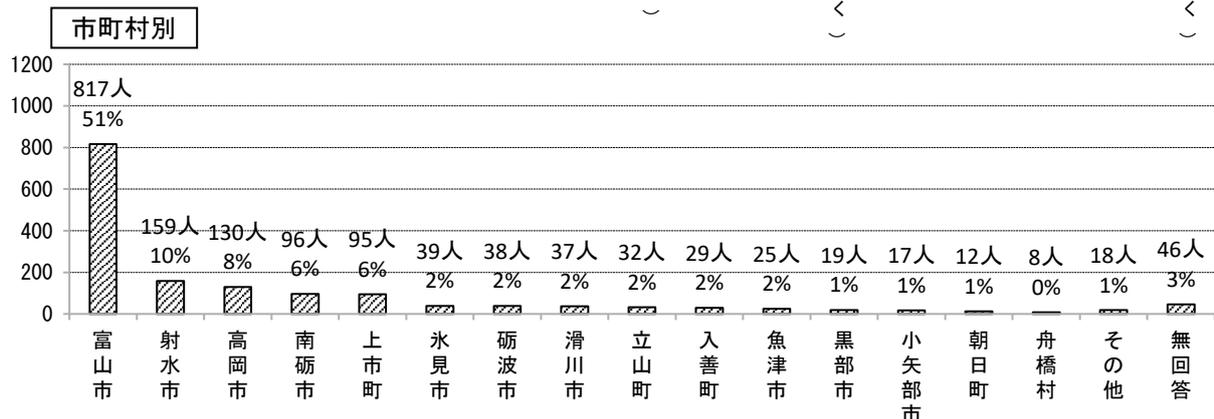
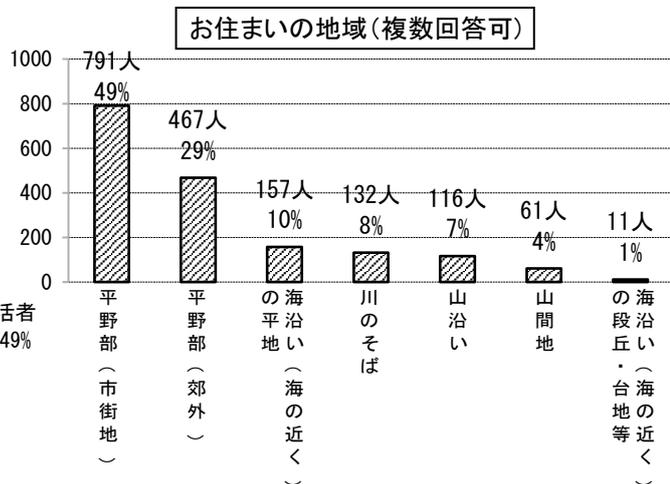
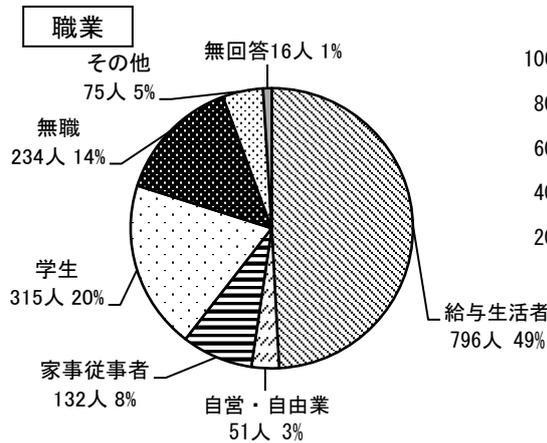
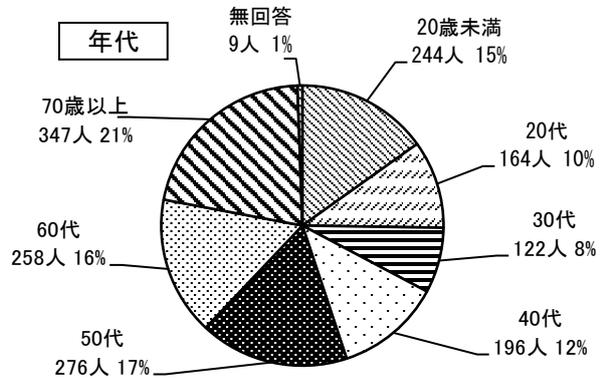
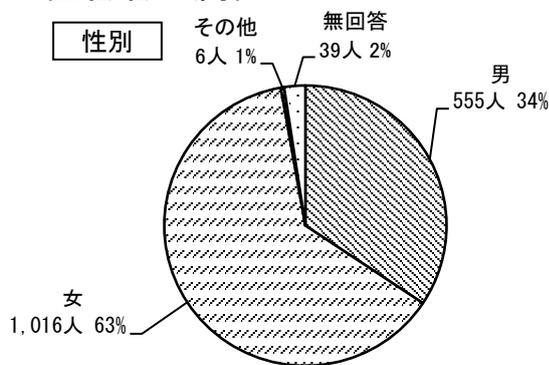
そこで、今回、災害に対する意識や備え等の状況を把握し、地域や家庭の防災力向上、安全・安心な消費生活を送るための検討・参考資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。

◆調査時期：令和6年6月下旬～7月下旬

◆調査対象：1,616人(紙面回答1,275人(78.9%)、インターネット回答341人(21.1%))

◆調査方法：紙面調査(自記入式)及びインターネット調査

II 回答者の属性



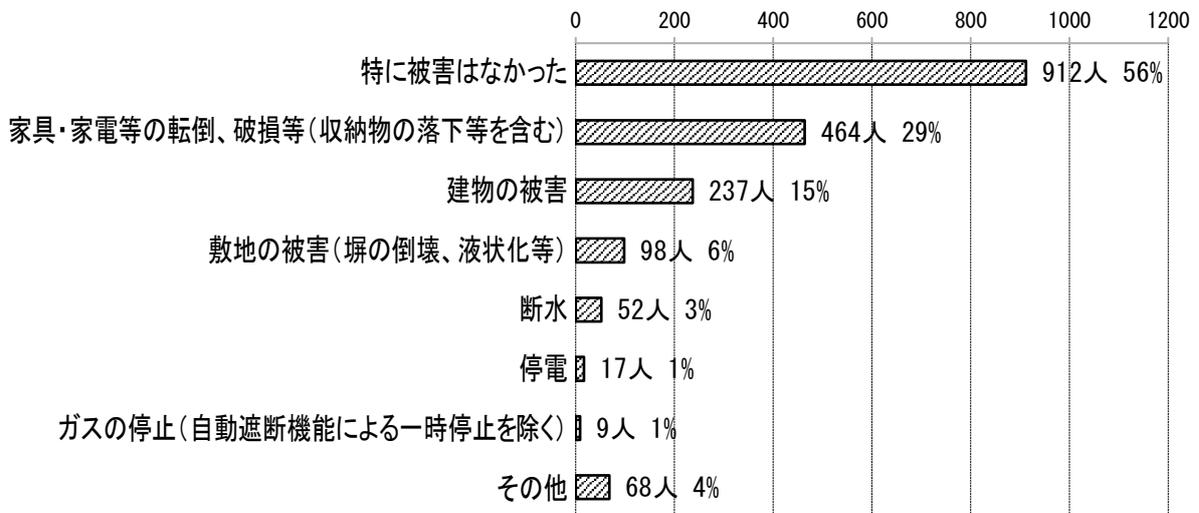
Ⅲ 調査結果の概要

1. 令和6年能登半島地震に関して

問1 能登半島地震による被害の有無や影響等についてお答えください

(1) ご自宅(賃貸アパート・下宿・寮等を含む)について(該当するものすべて)

「特に被害はなかった」と回答した人は56%で、44%の人は何らかの被害等があり、「家具・家電等の転倒、破損等(収納物の落下等を含む)」が29%、「建物の被害」が15%、「敷地の被害(塀の倒壊、液状化等)」が6%である。電気・ガス・水道のライフラインでは、「断水」が多い。また、「その他」として、「庭の灯籠の倒壊」や「墓石のずれ、転倒」「エレベーターの停止」などの被害もある。



<年代別・男女別>

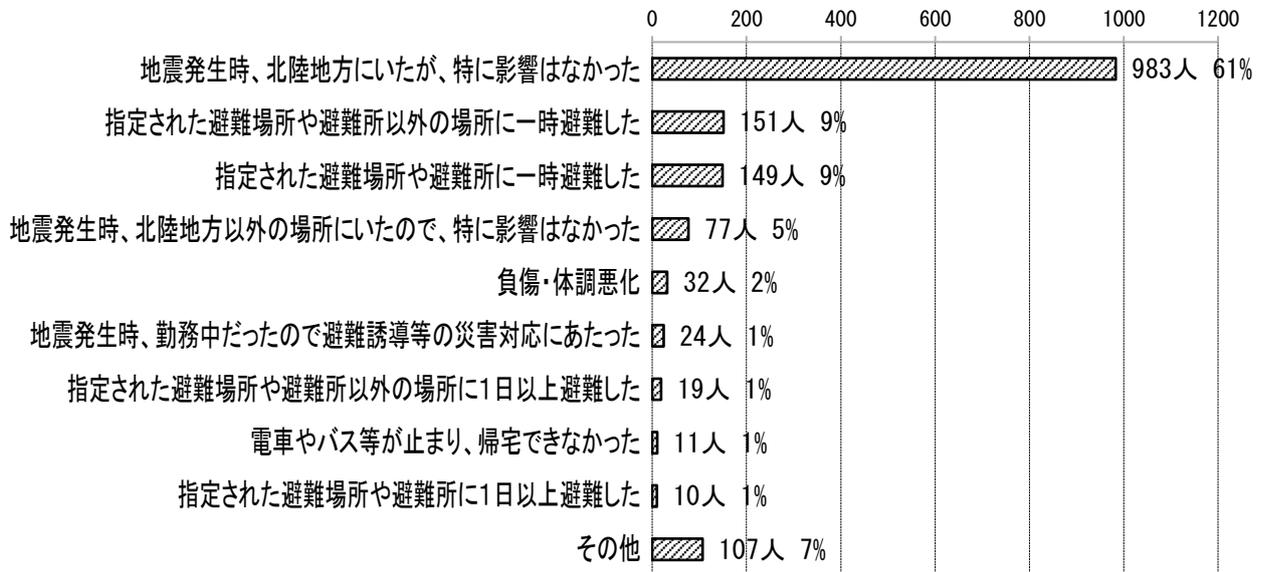
性別／年代別	人数	項目								
		特に被害はなかった	の倒家具、落下破損等を含む(収納物の転倒)	建物の被害	壊敷、地の液状化被害等(塀の倒)	断水	停電	停遮ガ止断スを機除能停くによ(一自時動)	その他	
年代別	20歳未満	244人	145(59%)	78(32%)	20(8%)	9(4%)	6(2%)	1(0%)	0(0%)	2(1%)
	20代	164人	90(55%)	63(38%)	13(8%)	5(3%)	4(2%)	1(1%)	0(0%)	3(2%)
	30代	122人	71(58%)	35(29%)	21(17%)	8(7%)	4(3%)	1(1%)	1(1%)	1(1%)
	40代	196人	125(64%)	51(26%)	21(11%)	7(4%)	3(2%)	0(0%)	0(0%)	5(3%)
	50代	276人	155(56%)	79(29%)	46(17%)	23(8%)	13(5%)	4(1%)	1(0%)	15(5%)
	60代	258人	121(47%)	77(30%)	56(22%)	25(10%)	10(4%)	3(1%)	2(1%)	16(6%)
	70歳以上	347人	199(57%)	80(23%)	59(17%)	21(6%)	12(3%)	7(2%)	5(1%)	25(7%)
	無回答	9人	6(67%)	1(11%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)
男女別	男性	555人	321(58%)	155(28%)	79(14%)	25(5%)	20(4%)	7(1%)	1(0%)	22(4%)
	女性	1,016人	566(56%)	297(29%)	153(15%)	70(7%)	31(3%)	8(1%)	4(0%)	45(4%)
	その他	6人	4(67%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)	0(0%)
	無回答	39人	21(54%)	11(28%)	5(13%)	3(8%)	0(0%)	1(3%)	3(8%)	1(3%)
全体	1,616人	912(56%)	464(29%)	237(15%)	98(6%)	52(3%)	17(1%)	9(1%)	68(4%)	

(2) ご自身について(該当するものすべて)

61%の人は「地震発生時、北陸地方にいたが、特に影響はなかった」と回答。また、「地震発生時、北陸地方以外の場所にいたので、特に影響はなかった」と回答した人が5%である。

年代や男女を問わず、20%の人が避難し、内訳は、「指定された避難場所等に一時避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に一時避難した」がともに9%、「指定された避難場所等に1日以上避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に1日以上避難した」がともに1%である。

また、「その他」として、「地震発生後、出社・出勤し、災害対応にあたった」といった回答が多くあるほか、「指定避難場所が閉鎖しており、家で待機した」「交通渋滞で避難所に行けなかった」等の回答もある。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目										
		かいた震動が発生した際に、北陸地方に	難しさを外れた避難場所や避難	指定された避難場所や避難	指定された避難場所や避難	に地震発生時に、北陸地方以外に	負傷・体調悪化	対応に避難誘導等災害	地震発生時の避難場所	指定された避難場所	指定された避難場所	帰宅できなかった
年代別	20歳未満	244人	145(59%)	28(11%)	23(9%)	15(6%)	6(2%)	2(1%)	6(2%)	7(3%)	2(1%)	9(4%)
	20代	164人	92(56%)	12(7%)	20(12%)	19(12%)	6(4%)	6(4%)	1(1%)	0(0%)	3(2%)	6(4%)
	30代	122人	72(59%)	9(7%)	14(11%)	8(7%)	2(2%)	5(4%)	1(1%)	0(0%)	1(1%)	2(2%)
	40代	196人	124(63%)	19(10%)	15(8%)	12(6%)	1(1%)	5(3%)	1(1%)	1(1%)	2(1%)	15(8%)
	50代	276人	181(66%)	26(9%)	21(8%)	8(3%)	3(1%)	3(1%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	21(8%)
	60代	258人	168(65%)	23(9%)	22(9%)	6(2%)	6(2%)	2(1%)	4(2%)	1(0%)	1(0%)	18(7%)
	70歳以上	347人	194(56%)	33(10%)	34(10%)	9(3%)	8(2%)	1(0%)	6(2%)	2(1%)	1(0%)	36(10%)
	無回答	9人	7(78%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	555人	327(59%)	45(8%)	53(10%)	34(6%)	14(3%)	10(2%)	8(1%)	8(1%)	5(1%)	37(7%)
	女性	1,016人	633(62%)	100(10%)	93(9%)	41(4%)	17(2%)	13(1%)	10(1%)	3(0%)	4(0%)	68(7%)
	その他	6人	4(67%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(17%)
	無回答	39人	19(49%)	5(13%)	3(8%)	2(5%)	1(3%)	1(3%)	1(3%)	0(0%)	1(3%)	1(3%)
全体	1,616人	983(61%)	151(9%)	149(9%)	77(5%)	32(2%)	24(1%)	19(1%)	11(1%)	10(1%)	107(7%)	

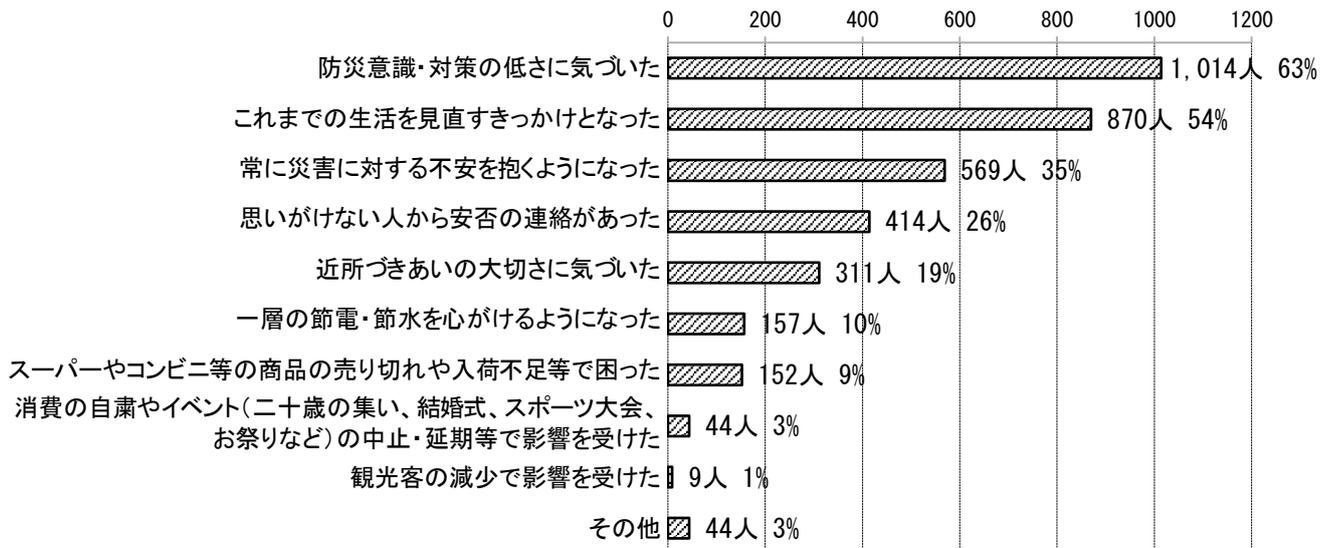
問2 能登半島地震によって、あなたは物質的な面や精神的な面でどのような影響を受けましたか。(4つまで)

全体では、「防災意識・対策の低さに気づいた」が63%と最も高く、「これまでの生活を見直すきっかけとなった」54%、「常に災害に対する不安を抱くようになった」35%である。

また、消費行動に関しては、「一層の節電・節水を心がけるようになった」10%、「スーパーやコンビニ等の商品の売り切れや入荷不足等で困った」9%である。

年代別では、70歳以上において、「思いがけない人から安否の連絡があった」「近所づきあいの大切さに気づいた」「一層の節電・節水を心がけるようになった」が、他の年代に比べ特に高い。

男女別では、「防災意識・対策の低さに気づいた」「これまでの生活を見直すきっかけとなった」という意識の変化において、女性の方が男性よりも10ポイント高い。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目									
		に防災意識が低い・対策の低さ	すっきりと生活を見直すきっかけ	常に災害に対する不安	思いがけない人から安否の連絡があった	近所づきあいの大切さ	一層の節電・節水を心がけるようになった	スーパーやコンビニ等の商品の売り切れや入荷不足等で困った	消費の自粛やイベントの中止・延期等で影響を受けた	観光客の減少で影響を受けた	その他
20歳未満	244人	113(46%)	162(66%)	63(26%)	33(14%)	24(10%)	21(9%)	24(10%)	3(1%)	0(0%)	6(2%)
20代	164人	86(52%)	95(58%)	46(28%)	27(16%)	6(4%)	7(4%)	25(15%)	3(2%)	0(0%)	3(2%)
30代	122人	79(65%)	61(50%)	40(33%)	24(20%)	11(9%)	7(6%)	11(9%)	3(2%)	2(2%)	6(5%)
40代	196人	134(68%)	92(47%)	79(40%)	54(28%)	23(12%)	16(8%)	29(15%)	5(3%)	1(1%)	9(5%)
50代	276人	195(71%)	130(47%)	109(39%)	69(25%)	49(18%)	23(8%)	28(10%)	13(5%)	3(1%)	5(2%)
60代	258人	170(66%)	130(50%)	101(39%)	75(29%)	53(21%)	27(10%)	25(10%)	6(2%)	1(0%)	6(2%)
70歳以上	347人	233(67%)	195(56%)	130(37%)	128(37%)	143(41%)	55(16%)	10(3%)	11(3%)	2(1%)	7(2%)
無回答	9人	4(44%)	5(56%)	1(11%)	4(44%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	2(22%)
男性	555人	316(57%)	263(47%)	178(32%)	116(21%)	99(18%)	41(7%)	54(10%)	23(4%)	1(0%)	23(4%)
女性	1,016人	678(67%)	580(57%)	379(37%)	285(28%)	199(20%)	109(11%)	93(9%)	20(2%)	7(1%)	18(2%)
その他	6人	2(33%)	4(67%)	2(33%)	0(0%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)	1(17%)
無回答	39人	18(46%)	23(59%)	10(26%)	13(33%)	12(31%)	6(15%)	4(10%)	1(3%)	1(3%)	2(5%)
全体	1,616人	1,014(63%)	870(54%)	569(35%)	414(26%)	311(19%)	157(10%)	152(9%)	44(3%)	9(1%)	44(3%)

※ 網掛け表示は、数値に特徴的な傾向が見られるもの。以下、同じ。

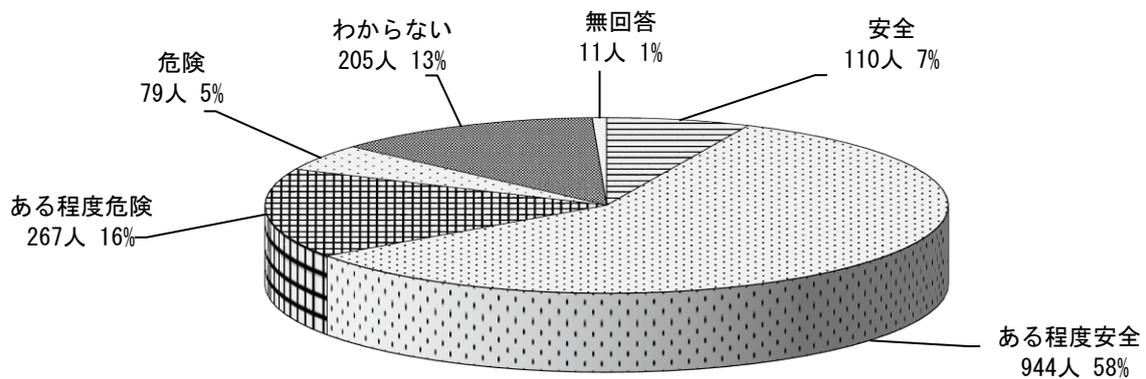
2. 災害・防災の意識などについて

問3 あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。(1つ)

全体では、「安全」7%と「ある程度安全」58%を合わせると65%で、「危険」5%と「ある程度危険」16%を合わせた21%よりも3倍高い。

一方、「わからない」が13%である。

年代別・男女別でも、「安全」または「ある程度安全」が、「危険」または「ある程度危険」よりも3倍程度高い傾向に大きな差はない。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目						ある程度安全または危険	ある程度安全または危険	
		安全	ある程度安全	ある程度危険	危険	わからない	無回答			
年代別	20歳未満	244人	39(16%)	125(51%)	42(17%)	13(5%)	25(10%)	0(0%)	164(67%)	55(23%)
	20代	164人	14(9%)	99(60%)	33(20%)	6(4%)	12(7%)	0(0%)	113(69%)	39(24%)
	30代	122人	6(5%)	70(57%)	16(13%)	7(6%)	22(18%)	1(1%)	76(62%)	23(19%)
	40代	196人	14(7%)	114(58%)	28(14%)	7(4%)	31(16%)	2(1%)	128(65%)	35(18%)
	50代	276人	10(4%)	162(59%)	52(19%)	12(4%)	39(14%)	1(0%)	172(62%)	64(23%)
	60代	258人	6(2%)	155(60%)	46(18%)	17(7%)	32(12%)	2(1%)	161(62%)	63(24%)
	70歳以上	347人	21(6%)	212(61%)	50(14%)	17(5%)	43(12%)	4(1%)	233(67%)	67(19%)
	無回答	9人	0(0%)	7(78%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)	1(11%)	7(78%)	0(0%)
男女別	男性	555人	59(11%)	314(57%)	86(15%)	30(5%)	63(11%)	3(1%)	373(67%)	116(21%)
	女性	1,016人	48(5%)	607(60%)	175(17%)	48(5%)	131(13%)	7(1%)	655(64%)	223(22%)
	その他	6人	1(17%)	2(33%)	1(17%)	0(0%)	2(33%)	0(0%)	3(50%)	1(17%)
	無回答	39人	2(5%)	21(54%)	5(13%)	1(3%)	9(23%)	1(3%)	23(59%)	6(15%)
	全体	1,616人	110(7%)	944(58%)	267(16%)	79(5%)	205(13%)	11(1%)	1,054(65%)	346(21%)

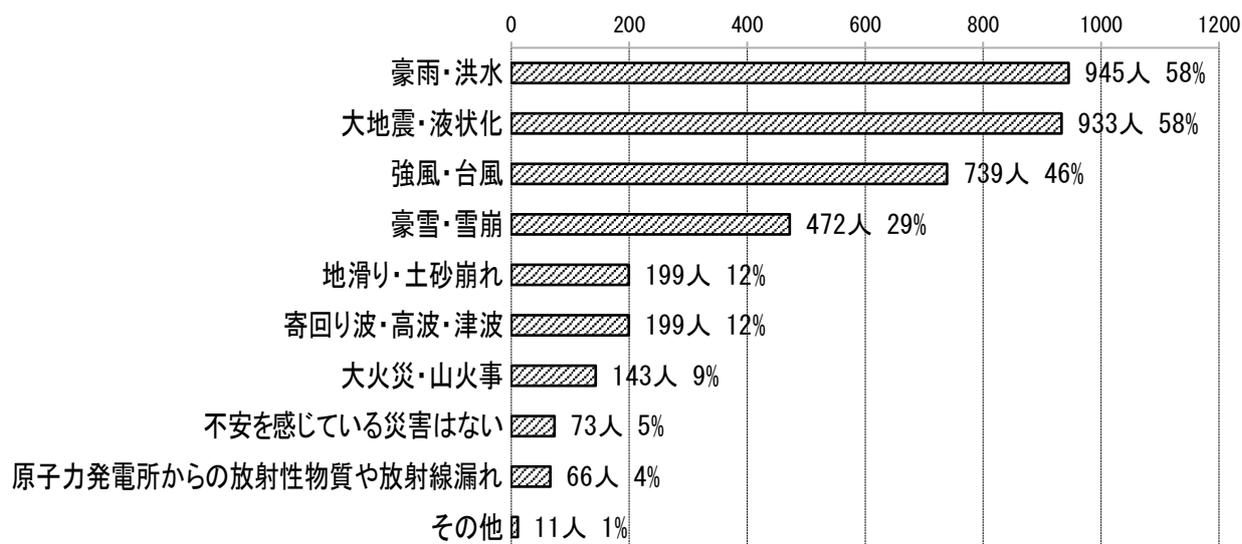
問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。(4つまで)

全体では、「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」がともに58%と高く、「強風・台風」46%、「豪雪・雪崩」29%である。

一方、「不安を感じている災害はない」が5%である。

年代別でも、「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」が高いが、年代が高くなるにつれて「強風・台風」の比率が高くなり、70歳以上では「強風・台風」が最も高い。

男女別では、大きな差はない。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目										
		豪雨・洪水	大地震・液状化	強風・台風	豪雪・雪崩	地滑り・土砂崩れ	寄回り波・高波・津波	大火災・山火事	不安を感じている災害はない	原子力発電所からの放射性物質や放射線漏れ	その他	
年代別	20歳未満	244人	120(49%)	113(46%)	68(28%)	57(23%)	37(15%)	42(17%)	23(9%)	22(9%)	2(1%)	2(1%)
	20代	164人	97(59%)	94(57%)	44(27%)	49(30%)	29(18%)	25(15%)	12(7%)	10(6%)	5(3%)	2(1%)
	30代	122人	76(62%)	80(66%)	40(33%)	28(23%)	17(14%)	18(15%)	7(6%)	2(2%)	3(2%)	0(0%)
	40代	196人	120(61%)	124(63%)	85(43%)	61(31%)	24(12%)	17(9%)	13(7%)	3(2%)	8(4%)	0(0%)
	50代	276人	169(61%)	175(63%)	129(47%)	77(28%)	22(8%)	32(12%)	21(8%)	11(4%)	12(4%)	3(1%)
	60代	258人	163(63%)	146(57%)	150(58%)	83(32%)	26(10%)	30(12%)	25(10%)	9(3%)	9(3%)	1(0%)
	70歳以上	347人	195(56%)	199(57%)	217(63%)	114(33%)	43(12%)	34(10%)	42(12%)	16(5%)	27(8%)	2(1%)
	無回答	9人	5(56%)	2(22%)	6(67%)	3(33%)	1(11%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)
男女別	男性	555人	308(55%)	329(59%)	228(41%)	160(29%)	54(10%)	72(13%)	47(8%)	34(6%)	25(5%)	3(1%)
	女性	1,016人	608(60%)	580(57%)	484(48%)	300(30%)	136(13%)	122(12%)	93(9%)	38(4%)	40(4%)	7(1%)
	その他	6人	3(50%)	3(50%)	3(50%)	0(0%)	2(33%)	1(17%)	0(0%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)
	無回答	39人	26(67%)	21(54%)	24(62%)	12(31%)	7(18%)	4(10%)	3(8%)	0(0%)	1(3%)	1(3%)
全体	1,616人	945(58%)	933(58%)	739(46%)	472(29%)	199(12%)	199(12%)	143(9%)	73(5%)	66(4%)	11(1%)	

【参考1】「お住まいの地域」と問3「居住地域は災害に対し安全だと思うか」の関連

「平野部」では、「安全」または「ある程度安全」が70%と高く、「海沿い(海の近く)の平地」では「危険」または「ある程度危険」57%と高い。

お住まいの地域	人数	問3 あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。						ある程度安全または	ある程度危険または
		安全	ある程度安全	ある程度危険	危険	わからない	無回答		
平野部(市街地)	791人	55 7%	507 64%	110 14%	20 3%	95 12%	4 1%	562 71%	130 16%
平野部(郊外)	467人	39 8%	297 64%	58 12%	9 2%	63 13%	1 0%	336 72%	67 14%
海沿い(海の近く)の平地	157人	6 4%	44 28%	52 33%	38 24%	17 11%	0 0%	50 32%	90 57%
海沿い(海の近く)の段丘・台地等	11人	0 0%	3 27%	3 27%	2 18%	3 27%	0 0%	3 27%	5 45%
山沿い	116人	9 8%	58 50%	27 23%	6 5%	16 14%	0 0%	67 58%	33 28%
山間地	61人	2 3%	25 41%	18 30%	6 10%	10 16%	0 0%	27 44%	24 39%
川のそば	132人	6 5%	63 48%	35 27%	11 8%	17 13%	0 0%	69 52%	46 35%
無回答	26人	1 4%	13 50%	3 12%	0 0%	3 12%	6 23%	14 54%	3 12%
全体	1,616人	110 7%	944 58%	267 16%	79 5%	205 13%	11 1%	1,054 65%	346 21%

※「全体」1,616人は実人数

【参考2】「お住まいの地域」と問4「居住地域で心配だと感じている災害」の関連

「豪雨・洪水」「大地震・液状化」「強風・台風」は、どの地域においても高く、特に、「川のそば」では「豪雨・洪水」が80%と突出して高いほか、「海沿い(海の近く)の平地」では「寄回り波・高波・津波」65%、「山間地」では「地滑り・土砂崩れ」77%が際立っている。

お住まいの地域	人数	問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。(4つまで)										
		豪雨・洪水	大地震・液状化	強風・台風	豪雪・雪崩	地滑り・土砂崩れ	津寄回り波・高波・津波	大火災・山火事	災害は感じていない	不安を感じている	放射線・放射性物質や原子力発電所からの放射線漏れ	その他
平野部(市街地)	791人	490 62%	476 60%	337 43%	212 27%	47 6%	67 8%	82 10%	41 5%	30 4%	3 0%	5 1%
平野部(郊外)	467人	276 59%	272 58%	265 57%	153 33%	42 9%	34 7%	36 8%	21 4%	18 4%	3 0%	2 0%
海沿い(海の近く)の平地	157人	63 40%	101 64%	48 31%	19 12%	9 6%	102 65%	7 4%	4 3%	11 7%	2 1%	1 1%
海沿い(海の近く)の段丘・台地等	11人	7 64%	10 91%	5 45%	2 18%	5 45%	3 27%	0 0%	0 0%	1 9%	1 9%	0 0%
山沿い	116人	61 53%	45 39%	50 43%	47 41%	51 44%	4 3%	9 8%	5 4%	3 3%	2 2%	0 0%
山間地	61人	33 54%	23 38%	26 43%	35 57%	47 77%	1 2%	6 10%	0 0%	3 5%	1 2%	0 0%
川のそば	132人	105 80%	67 51%	46 35%	37 28%	15 11%	20 15%	8 6%	4 0%	2 2%	1 4%	1 1%
無回答	26人	16 62%	10 38%	13 50%	7 27%	2 8%	2 8%	2 8%	2 8%	1 4%	1 4%	6 23%
全体	1,616人	945 58%	933 58%	769 46%	472 29%	199 12%	199 12%	143 9%	73 5%	66 4%	11 1%	14 1%

※「全体」1,616人は実人数

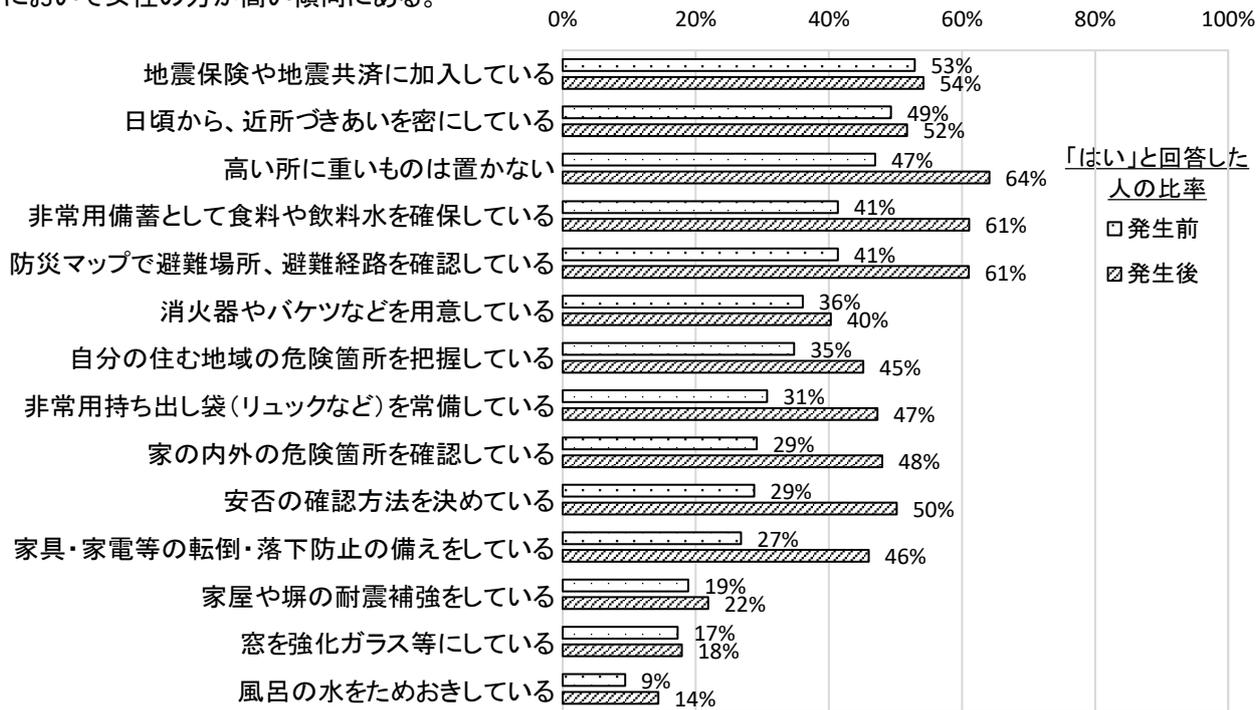
3. 災害に対する備えに関して

問5 災害への備えとして、あなたの準備・対策の状況を、能登半島地震発生前と発生後についてお答えください。(発生前、発生後それぞれについて「はい」「いいえ」で回答)

全体では、能登半島地震発生前に比べ、いずれの項目も、地震発生後に準備・対策状況が高くなっている。「高い所に重いものは置かない」64%、「非常用備蓄として食料や飲料水を確保している」61%、「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」61%と高く、地震発生前からの伸びも大きい。

また、「安否の確認方法を決めている」「家の内外の危険箇所を確認している」「家具・家電等の転倒・落下防止の備えをしている」「非常用持ち出し袋を常備している」も大きく伸びている。

地震発生後の状況について見ると、年代別では、「日頃から近所づきあいを密にしている」「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」「消火器やバケツなどを用意している」において60代以上が高く、男女別では、各項目において女性の方が高い傾向にある。



<年代別・男女別> ※地震発生後

性別／年代別	人数	(地震発生後)														
		地震保険や地震共済に加入している	日頃から、近所づきあいを密にしている	高い所に重いものは置かない	非常用備蓄として食料や飲料水を確保している	防災マップで避難場所、避難経路を確認している	消火器やバケツなどを用意している	自分の住む地域の危険箇所を把握している	非常用持ち出し袋を常備している	家の内外の危険箇所を確認している	安否の確認方法を決めている	家具・家電等の転倒・落下防止の備えをしている	家屋や塀の耐震補強をしている	窓を強化ガラス等に行っている	風呂の水をためおきしている	
年代別	20歳未満	244人	99	97	131	133	118	76	124	99	109	136	103	77	55	41
			41%	40%	54%	55%	48%	31%	51%	41%	45%	56%	42%	32%	23%	17%
	20代	164人	70	67	100	99	87	52	76	70	80	94	83	38	28	16
			43%	41%	61%	60%	53%	32%	46%	43%	49%	57%	51%	23%	17%	10%
	30代	122人	63	41	80	73	65	29	43	58	47	62	47	23	26	7
			52%	34%	66%	60%	53%	24%	35%	48%	39%	51%	39%	19%	21%	6%
	40代	196人	115	77	124	126	116	52	81	99	80	87	94	40	26	17
			59%	39%	63%	64%	59%	27%	41%	51%	41%	44%	48%	20%	13%	9%
50代	276人	173	136	182	180	172	106	122	127	136	134	133	55	39	39	
		63%	49%	66%	65%	62%	38%	44%	46%	49%	49%	48%	20%	14%	14%	
60代	258人	152	163	171	169	182	141	128	124	139	129	122	49	36	40	
		59%	63%	66%	66%	71%	55%	50%	48%	54%	50%	47%	19%	14%	16%	
70歳以上	347人	200	252	241	200	241	190	153	183	180	165	156	69	75	70	
		58%	73%	69%	58%	69%	55%	44%	53%	52%	48%	45%	20%	22%	20%	
無回答	9人	4	3	7	7	5	5	3	4	5	4	5	2	4	2	
		44%	33%	78%	78%	56%	56%	33%	44%	56%	44%	56%	22%	44%	22%	
男女別	男性	555人	284	283	330	306	303	216	253	229	265	271	243	119	87	58
			51%	51%	59%	55%	55%	39%	46%	41%	48%	49%	44%	21%	16%	10%
	女性	1,016人	566	534	676	650	660	414	459	510	489	516	477	219	187	169
			56%	53%	67%	64%	65%	41%	45%	50%	48%	51%	47%	22%	18%	17%
	その他	6人	1	3	3	5	2	4	3	2	2	3	2	2	2	1
		17%	50%	50%	83%	33%	67%	50%	33%	33%	50%	33%	33%	33%	17%	
無回答	39人	25	16	27	26	21	17	15	23	20	21	21	13	13	4	
		64%	41%	69%	67%	54%	44%	38%	59%	51%	54%	54%	33%	33%	10%	
全体	1,616人	876	836	1036	987	986	651	730	764	776	811	743	353	289	232	
		54%	52%	64%	61%	61%	40%	45%	47%	48%	50%	46%	22%	18%	14%	

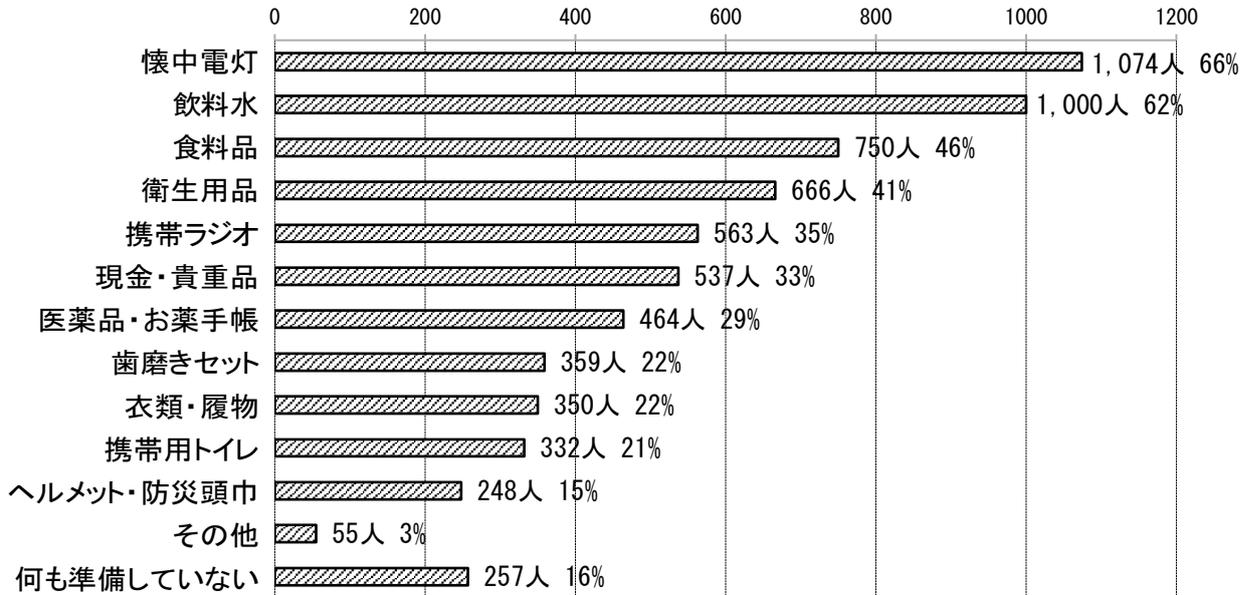
問6 非常用持ち出し品として準備しているものは何ですか。(該当するものすべて)

全体では、「懐中電灯」66%と「飲料水」62%が高く、「食料品」46%、「衛生用品」41%である。

一方、15%の人は「何も準備していない」と回答。

年代別では、「懐中電灯」「携帯ラジオ」「医薬品・お薬手帳」「ヘルメット・防災頭巾」において60代以上が高い。

男女別では、大部分の準備品において女性の方が高い傾向にあり、「何も準備していない」は、男性が女性より8ポイント高い。



<年代別・男女別>

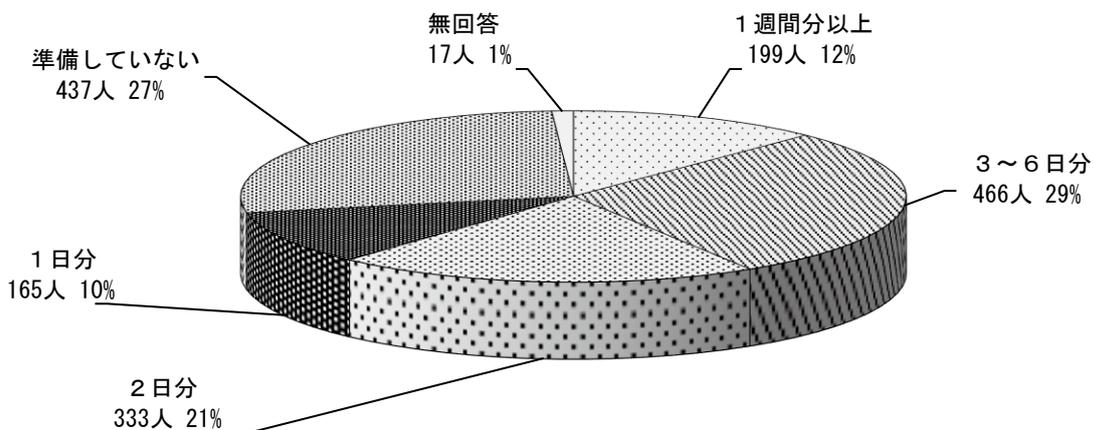
性別／年代別	人数	項目													
		懐中電灯	飲料水	食料品 レトルト食品、缶詰、 干パン、餡など	トイレ ティッシュ、 消毒液、 ウエット ティッシュ	衛生用品 (マスク、 アルコール)	携帯ラジオ	現金・貴重品	医薬品・お薬手帳	歯磨きセット	衣類・履物	携帯用トイレ	ヘルメット・防災頭巾	その他	何も準備していない
年代別	20歳未満	244人	120(49%)	142(58%)	115(47%)	72(30%)	48(20%)	79(32%)	55(23%)	34(14%)	46(19%)	25(10%)	19(8%)	1(0%)	55(23%)
	20代	164人	88(54%)	99(60%)	74(45%)	53(32%)	19(12%)	46(28%)	28(17%)	26(16%)	37(23%)	29(18%)	18(11%)	3(2%)	30(18%)
	30代	122人	66(54%)	82(67%)	57(47%)	57(47%)	19(16%)	33(27%)	28(23%)	30(25%)	24(20%)	34(28%)	13(11%)	7(6%)	28(23%)
	40代	196人	118(60%)	119(61%)	94(48%)	83(42%)	47(24%)	64(33%)	40(20%)	32(16%)	39(20%)	42(21%)	26(13%)	6(3%)	36(18%)
	50代	276人	183(66%)	166(60%)	122(44%)	121(44%)	95(34%)	75(27%)	53(19%)	72(26%)	52(19%)	63(23%)	35(13%)	8(3%)	46(17%)
	60代	258人	203(79%)	170(66%)	128(50%)	108(42%)	124(48%)	81(31%)	85(33%)	49(19%)	45(17%)	70(27%)	54(21%)	14(5%)	32(12%)
	70歳以上	347人	291(84%)	217(63%)	155(45%)	168(48%)	208(60%)	156(45%)	172(50%)	114(33%)	105(30%)	66(19%)	82(24%)	15(4%)	29(8%)
	無回答	9人	5(56%)	5(56%)	5(56%)	4(44%)	3(33%)	3(33%)	3(33%)	2(22%)	2(22%)	3(33%)	1(11%)	1(11%)	1(11%)
男女別	男性	555人	323(58%)	322(58%)	238(43%)	170(31%)	156(28%)	193(35%)	144(26%)	95(17%)	111(20%)	74(13%)	87(16%)	10(2%)	119(21%)
	女性	1,016人	718(71%)	643(63%)	488(48%)	478(47%)	387(38%)	324(32%)	303(30%)	252(25%)	228(22%)	248(24%)	153(15%)	42(4%)	134(13%)
	その他	6人	2(33%)	4(67%)	3(50%)	1(17%)	1(17%)	3(50%)	2(33%)	0(0%)	2(33%)	1(17%)	1(17%)	0(0%)	2(33%)
	無回答	39人	31(79%)	31(79%)	21(54%)	17(44%)	19(49%)	17(44%)	15(38%)	12(31%)	9(23%)	9(23%)	7(18%)	3(8%)	2(5%)
全体	1,616人	1,074(66%)	1,000(62%)	750(46%)	666(41%)	563(35%)	537(33%)	464(29%)	359(22%)	350(22%)	332(21%)	248(15%)	55(3%)	257(16%)	

問7 あなたのお宅では、災害時に備えた食品や飲料水の家庭備蓄として何日分を準備していますか。

(1) 飲料水

全体では、「1週間分以上」12%、「3～6日分」29%、「2日分」21%、「1日分」10%であるが、27%の人は「準備していない」と回答。

「準備していない」は、年代別では20歳未満、男女別では男性が高い。



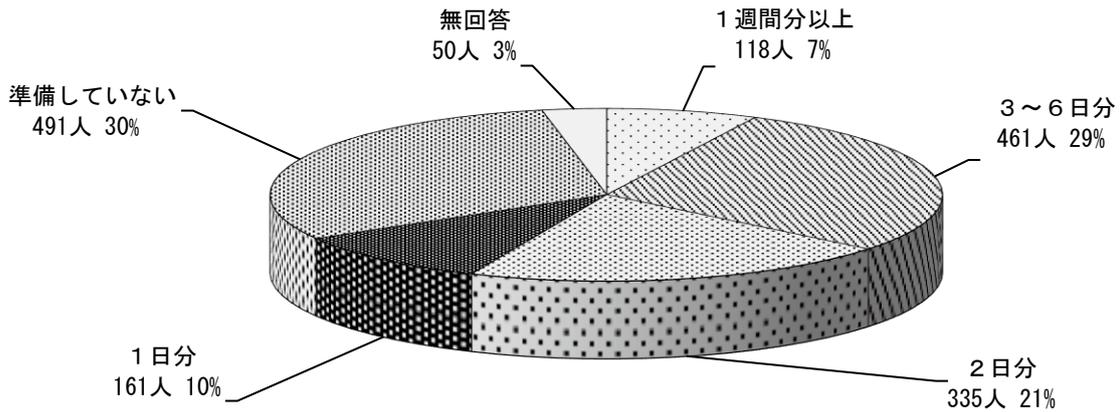
<年代別・男女別>

	性別／年代別	人数	項 目					準備していない	無回答
			1週間分以上	3～6日分	2日分	1日分			
年代別	20歳未満	244人	36(15%)	56(23%)	44(18%)	19(8%)	89(36%)	0(0%)	
	20代	164人	21(13%)	55(34%)	36(22%)	14(9%)	38(23%)	1(1%)	
	30代	122人	16(13%)	38(31%)	24(20%)	9(7%)	35(29%)	0(0%)	
	40代	196人	12(6%)	58(30%)	42(21%)	26(13%)	57(29%)	1(1%)	
	50代	276人	27(10%)	88(32%)	54(20%)	29(11%)	75(27%)	3(1%)	
	60代	258人	40(16%)	77(30%)	50(19%)	30(12%)	60(23%)	1(0%)	
	70歳以上	347人	45(13%)	92(27%)	80(23%)	38(11%)	81(23%)	11(3%)	
	無回答	9人	2(22%)	2(22%)	3(33%)	0(0%)	2(22%)	0(0%)	
男女別	男性	555人	64(12%)	149(27%)	105(19%)	54(10%)	179(32%)	5(1%)	
	女性	1,016人	128(13%)	305(30%)	216(21%)	106(10%)	249(25%)	12(1%)	
	その他	6人	1(17%)	1(17%)	1(17%)	2(33%)	1(17%)	0(0%)	
	無回答	39人	6(15%)	11(28%)	11(28%)	3(8%)	8(21%)	0(0%)	
	全体	1,616人	199(12%)	466(29%)	333(21%)	165(10%)	437(27%)	17(1%)	

(2)食料

全体では、「1週間分以上」7%、「3～6日分」29%、「2日分」21%、「1日分」10%であるが、30%の人は「準備していない」と回答。

「準備していない」は、飲料水同様、年代別では20歳未満、男女別では男性が高い。



<年代別・男女別>

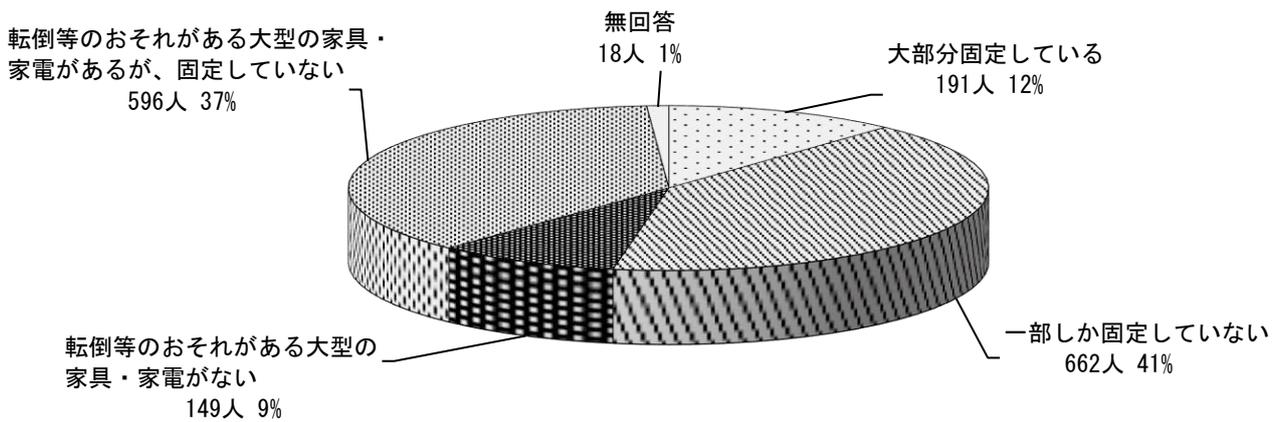
	性別／年代別	人数	項 目					準備していない	無回答
			1週間分以上	3～6日分	2日分	1日分			
年代別	20歳未満	244人	27(11%)	54(22%)	40(16%)	23(9%)	98(40%)	2(1%)	
	20代	164人	12(7%)	45(27%)	33(20%)	19(12%)	51(31%)	4(2%)	
	30代	122人	5(4%)	41(34%)	26(21%)	10(8%)	37(30%)	3(2%)	
	40代	196人	5(3%)	57(29%)	38(19%)	26(13%)	66(34%)	4(2%)	
	50代	276人	12(4%)	76(28%)	59(21%)	25(9%)	95(34%)	9(3%)	
	60代	258人	28(11%)	82(32%)	53(21%)	29(11%)	60(23%)	6(2%)	
	70歳以上	347人	28(8%)	101(29%)	85(24%)	28(8%)	83(24%)	22(6%)	
	無回答	9人	1(11%)	5(56%)	1(11%)	1(11%)	1(11%)	0(0%)	
男女別	男性	555人	43(8%)	138(25%)	107(19%)	62(11%)	194(35%)	11(2%)	
	女性	1,016人	71(7%)	308(30%)	218(21%)	95(9%)	287(28%)	37(4%)	
	その他	6人	1(17%)	1(17%)	2(33%)	1(17%)	1(17%)	0(0%)	
	無回答	39人	3(8%)	14(36%)	8(21%)	3(8%)	9(23%)	2(5%)	
	全体	1,616人	118(7%)	461(29%)	335(21%)	161(10%)	491(30%)	50(3%)	

問8 あなたのお宅では、大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えは、どの程度していますか。(1つ)

全体では、「大部分固定している」12%と「一部しか固定していない」41%を合わせると、53%の人が多少なりとも転倒・落下防止の対応をとっている。

一方、37%の人は、「転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない」と回答。

年代別・男女別では、大きな差はない。



<年代別・男女別>

	性別／年代別	人数	項 目				
			大部分固定している	一部しか固定していない	転倒等のおそれがある大型の家具・家電がある	転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない	無回答
年代別	20歳未満	244人	33(14%)	97(40%)	23(9%)	90(37%)	1(0%)
	20代	164人	17(10%)	86(52%)	16(10%)	44(27%)	1(1%)
	30代	122人	15(12%)	44(36%)	14(11%)	49(40%)	0(0%)
	40代	196人	25(13%)	81(41%)	24(12%)	66(34%)	0(0%)
	50代	276人	39(14%)	121(44%)	17(6%)	98(36%)	1(0%)
	60代	258人	26(10%)	109(42%)	19(7%)	103(40%)	1(0%)
	70歳以上	347人	34(10%)	121(35%)	34(10%)	144(41%)	14(4%)
	無回答	9人	2(22%)	3(33%)	2(22%)	2(22%)	0(0%)
男女別	男性	555人	62(11%)	240(43%)	46(8%)	203(37%)	4(1%)
	女性	1,016人	122(12%)	404(40%)	95(9%)	382(38%)	13(1%)
	その他	6人	1(17%)	2(33%)	1(17%)	2(33%)	0(0%)
	無回答	39人	6(15%)	16(41%)	7(18%)	9(23%)	1(3%)
	全体	1,616人	191(12%)	662(41%)	149(9%)	596(37%)	18(1%)

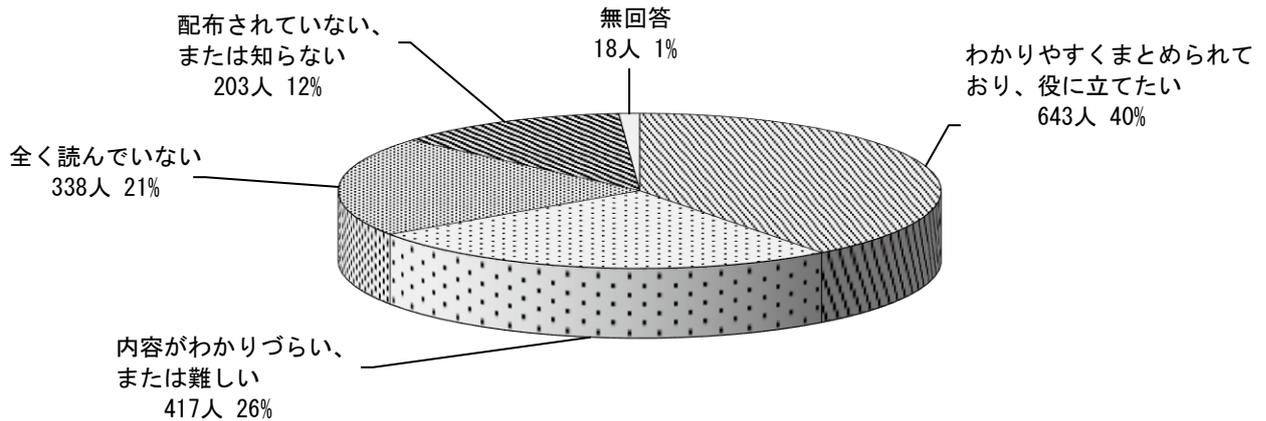
問9 お住まいの地域のハザードマップの内容を知っていますか。(1つ)

全体では、「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」が40%と最も高いが、「内容がわかりづらい、または難しい」も26%ある。

一方、「全く読んでいない」21%と「配布されていない、または知らない」12%を合わせると33%が全く活用されていない。

年代別では、年代が若くなるほど、活用されていない割合が高い。

男女別では、大きな差はない。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目					無回答	全 く 読 ま れ て い な い	ま ま 配 布 さ れ て い な い
		て ら わ た れ か い て り お や り す 、 く 役 ま に と 立 め	ま ま 内 容 が 難 し か い り づ ら い	全 く 読 ん で い な い	ま ま 配 布 は さ れ て い な い	無 回 答			
年代別	20歳未満	244人	69(28%)	33(14%)	76(31%)	66(27%)	0(0%)	142(58%)	
	20代	164人	52(32%)	30(18%)	54(33%)	28(17%)	1(1%)	82(50%)	
	30代	122人	40(33%)	30(25%)	28(23%)	23(19%)	1(1%)	51(42%)	
	40代	196人	88(45%)	48(24%)	39(20%)	22(11%)	0(0%)	61(31%)	
	50代	276人	119(43%)	77(28%)	50(18%)	31(11%)	0(0%)	81(29%)	
	60代	258人	121(47%)	75(29%)	43(17%)	18(7%)	1(0%)	61(24%)	
	70歳以上	347人	148(43%)	122(35%)	47(14%)	15(4%)	15(4%)	62(18%)	
	無回答	9人	6(67%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)	
男女別	男性	555人	220(40%)	132(24%)	131(24%)	69(12%)	4(1%)	200(36%)	
	女性	1,016人	403(40%)	274(27%)	199(20%)	128(13%)	14(1%)	327(32%)	
	その他	6人	1(17%)	2(33%)	2(33%)	1(17%)	0(0%)	3(50%)	
	無回答	39人	19(49%)	9(23%)	6(15%)	5(13%)	0(0%)	11(28%)	
全体	1,616人	643(40%)	417(26%)	338(21%)	203(12%)	18(1%)	541(33%)		

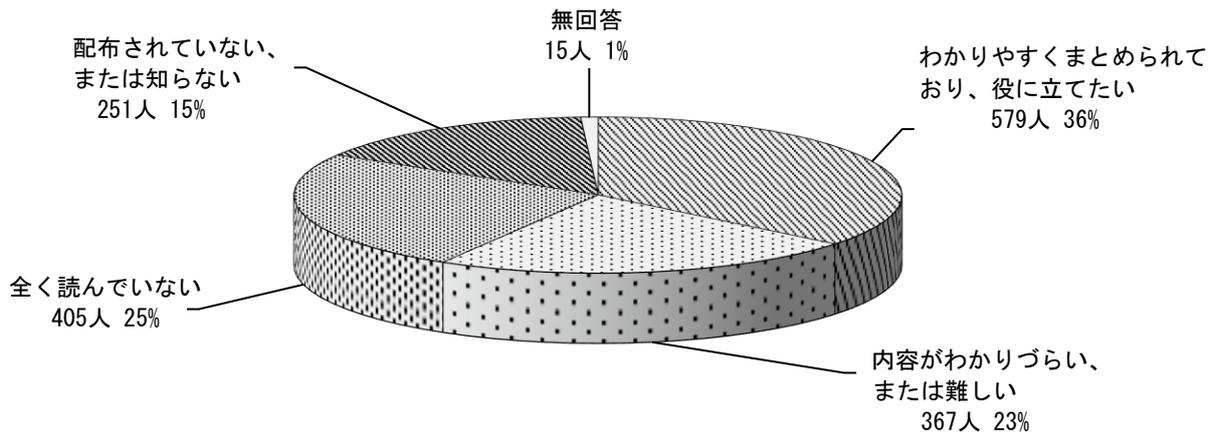
問10 お住まいの地域の防災マップの内容を知っていますか。(1つ)

全体では、「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」が36%と最も高いが、「内容がわかりづらい、または難しい」も23%ある。

一方、「全く読んでいない」25%と「配布されていない、または知らない」15%を合わせると40%が全く活用されていない。

年代別では、ハザードマップ同様、年代が若くなるほど、活用されていない割合が高い。

男女別では、大きな差はない。



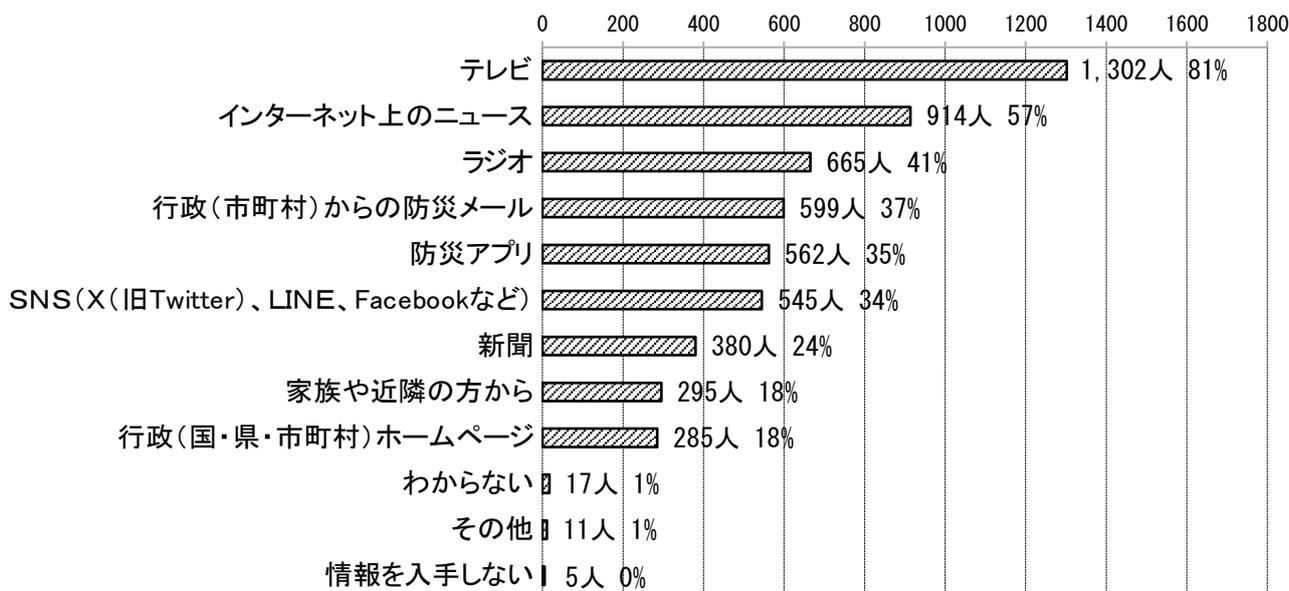
<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目					無回答	全 く 読 ま れ て い な い	ま ま 配 布 さ れ て い な い
		て ら わ た れ か い て り お や り す く 役 ま に と 立 め	ま ま 内 容 が わ か り ず ら い	全 く 読 ん で い な い	ま ま 配 布 は さ れ て い な い	無 回 答			
年代別	20歳未満	244人	68(28%)	30(12%)	77(32%)	69(28%)	0(0%)	146(60%)	
	20代	164人	49(30%)	20(12%)	61(37%)	33(20%)	2(1%)	94(57%)	
	30代	122人	34(28%)	25(20%)	34(28%)	28(23%)	1(1%)	62(51%)	
	40代	196人	71(36%)	44(22%)	48(24%)	33(17%)	0(0%)	81(41%)	
	50代	276人	109(39%)	65(24%)	56(20%)	46(17%)	0(0%)	102(37%)	
	60代	258人	106(41%)	65(25%)	59(23%)	26(10%)	2(1%)	85(33%)	
	70歳以上	347人	136(39%)	116(33%)	69(20%)	16(5%)	10(3%)	85(25%)	
	無回答	9人	6(67%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)	
男女別	男性	555人	197(35%)	109(20%)	160(29%)	85(15%)	4(1%)	245(44%)	
	女性	1,016人	364(36%)	250(25%)	233(23%)	159(16%)	11(1%)	392(39%)	
	その他	6人	0(0%)	2(33%)	3(50%)	1(17%)	0(0%)	4(67%)	
	無回答	39人	18(46%)	6(15%)	9(23%)	6(15%)	0(0%)	15(38%)	
全体	1,616人	579(36%)	367(23%)	405(25%)	251(15%)	15(1%)	656(40%)		

問11 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。(該当するものすべて)

全体では、「テレビ」が81%と最も高く、「インターネット上のニュース」57%、「ラジオ」41%、「行政(市町村)からの防災メール」37%、「防災アプリ」35%、「SNS(X、LINE、Facebookなど)」34%の順となっている。

年代別では、「ラジオ」「行政からの防災メール」「新聞」は60代以上、「インターネット上のニュース」は30代から50代、「SNS」は30代以下で高い。



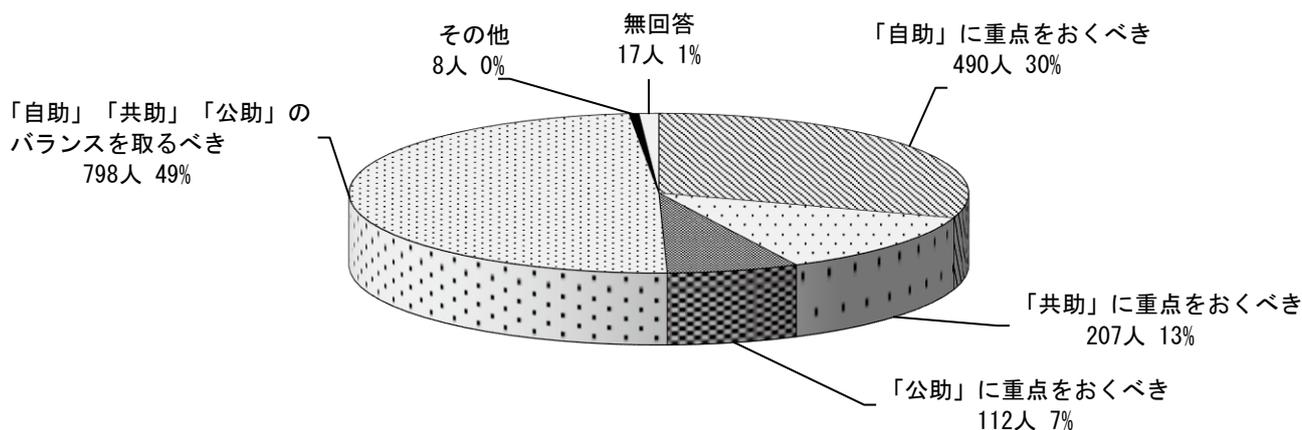
<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目												
		テレビ	インターネット上のニュース	ラジオ	行政(市町村)からの防災メール	防災アプリ	SNS(X、LINE、Facebookなど)	新聞	家族や近隣の方から	行政(国・県・市町村)ホームページ	わからない	その他	情報を入手しない	
年代別	20歳未満	244人	197(81%)	127(52%)	87(36%)	44(18%)	66(27%)	122(50%)	21(9%)	37(15%)	33(14%)	8(3%)	4(2%)	0(0%)
	20代	164人	124(76%)	92(56%)	36(22%)	38(23%)	48(29%)	101(62%)	15(9%)	24(15%)	31(19%)	3(2%)	2(1%)	2(1%)
	30代	122人	87(71%)	92(75%)	40(33%)	32(26%)	43(35%)	67(55%)	9(7%)	12(10%)	28(23%)	1(1%)	0(0%)	0(0%)
	40代	196人	160(82%)	141(72%)	74(38%)	87(44%)	76(39%)	71(36%)	32(16%)	29(15%)	49(25%)	0(0%)	1(1%)	0(0%)
	50代	276人	225(82%)	205(74%)	109(39%)	107(39%)	112(41%)	91(33%)	59(21%)	46(17%)	60(22%)	1(0%)	2(1%)	1(0%)
	60代	258人	206(80%)	145(56%)	126(49%)	132(51%)	121(47%)	49(19%)	80(31%)	48(19%)	49(19%)	0(0%)	1(0%)	0(0%)
	70歳以上	347人	297(86%)	108(31%)	188(54%)	154(44%)	91(26%)	43(12%)	162(47%)	97(28%)	34(10%)	4(1%)	1(0%)	2(1%)
	無回答	9人	6(67%)	4(44%)	5(56%)	5(56%)	5(56%)	1(11%)	2(22%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	555人	424(76%)	335(60%)	217(39%)	188(34%)	201(36%)	192(35%)	128(23%)	79(14%)	100(18%)	12(2%)	5(1%)	5(1%)
	女性	1,016人	847(83%)	556(55%)	429(42%)	392(39%)	341(34%)	334(33%)	237(23%)	207(20%)	181(18%)	5(0%)	5(0%)	0(0%)
	その他	6人	5(83%)	2(33%)	1(17%)	1(17%)	3(50%)	2(33%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	1(17%)	0(0%)
	無回答	39人	26(67%)	21(54%)	18(46%)	18(46%)	17(44%)	17(44%)	14(36%)	9(23%)	4(10%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
全体	1,616人	1,302(81%)	914(57%)	665(41%)	599(37%)	562(35%)	545(34%)	380(24%)	295(18%)	285(18%)	17(1%)	11(1%)	5(0%)	

4. 自助、共助、公助に対する考え方について

問12 自然災害が起こった時に、「自助」「共助」「公助」のどれに重点を置くべきと考えますか。(1つ)

全体では、「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべきが49%と約半数を占め、「自助」に重点をおくべき30%、「共助」に重点をおくべき13%、「公助」に重点をおくべき7%の順となっており、年代別でも、「自助」「共助」が「公助」を上回っている。



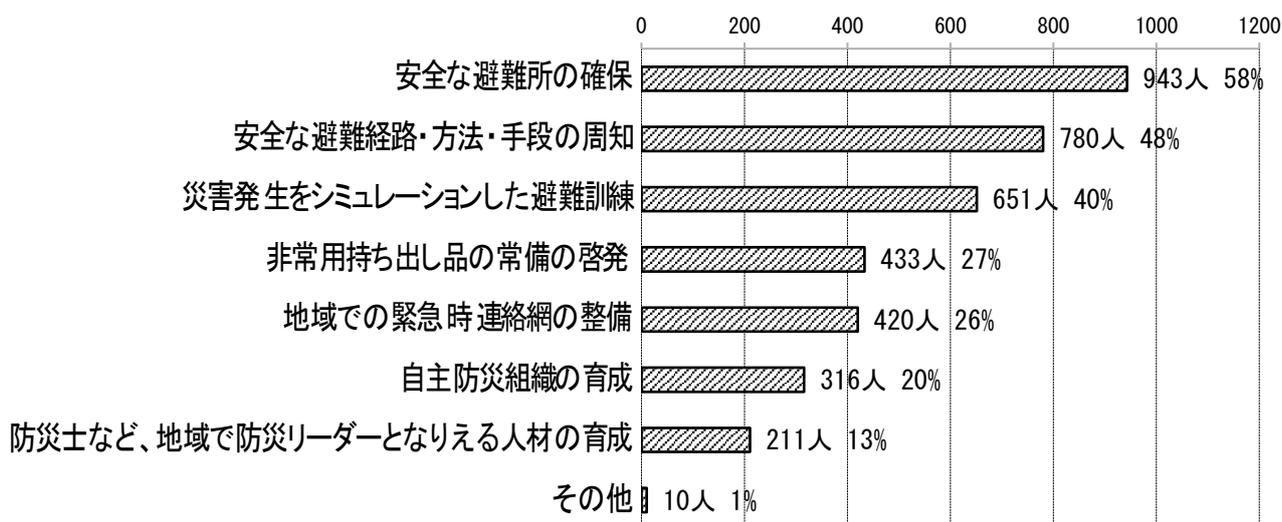
<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目						
		べき「自助」に重点をおく	べき「共助」に重点をおく	べき「公助」に重点をおく	取るべき「自助」「共助」「公助」のバランスを	その他	無回答	
年代別	20歳未満	244人	64(26%)	36(15%)	17(7%)	126(52%)	3(1%)	0(0%)
	20代	164人	57(35%)	29(18%)	15(9%)	68(41%)	0(0%)	0(0%)
	30代	122人	35(29%)	17(14%)	9(7%)	60(49%)	1(1%)	0(0%)
	40代	196人	57(29%)	19(10%)	11(6%)	115(59%)	0(0%)	0(0%)
	50代	276人	63(23%)	30(11%)	22(8%)	160(58%)	1(0%)	2(1%)
	60代	258人	77(30%)	27(10%)	17(7%)	133(52%)	0(0%)	4(2%)
	70歳以上	347人	135(39%)	48(14%)	20(6%)	131(38%)	3(1%)	11(3%)
	無回答	9人	2(22%)	1(11%)	1(11%)	5(56%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	555人	184(33%)	74(13%)	51(9%)	243(44%)	3(1%)	4(1%)
	女性	1,016人	297(29%)	128(13%)	57(6%)	530(52%)	4(0%)	12(1%)
	その他	6人	1(17%)	0(0%)	1(17%)	3(50%)	1(17%)	0(0%)
	無回答	39人	8(21%)	5(13%)	3(8%)	22(56%)	0(0%)	1(3%)
全体	1,616人	490(30%)	207(13%)	112(7%)	798(49%)	8(0%)	17(1%)	

問13 防災について、地域で必要な取組みは何だと思えますか。(3つまで)

全体では、「安全な避難所の確保」が58%と最も高く、「安全な避難経路・方法・手段の周知」48%、「災害発生をシミュレーションした避難訓練」40%である。

年代別でも、各年代で「安全な避難所の確保」が最も高い。60代以上では、「地域での緊急時連絡網の整備」「防災士など、地域で防災リーダーとなりえる人材の育成」が、他の年代に比べ高い。



<年代別・男女別>

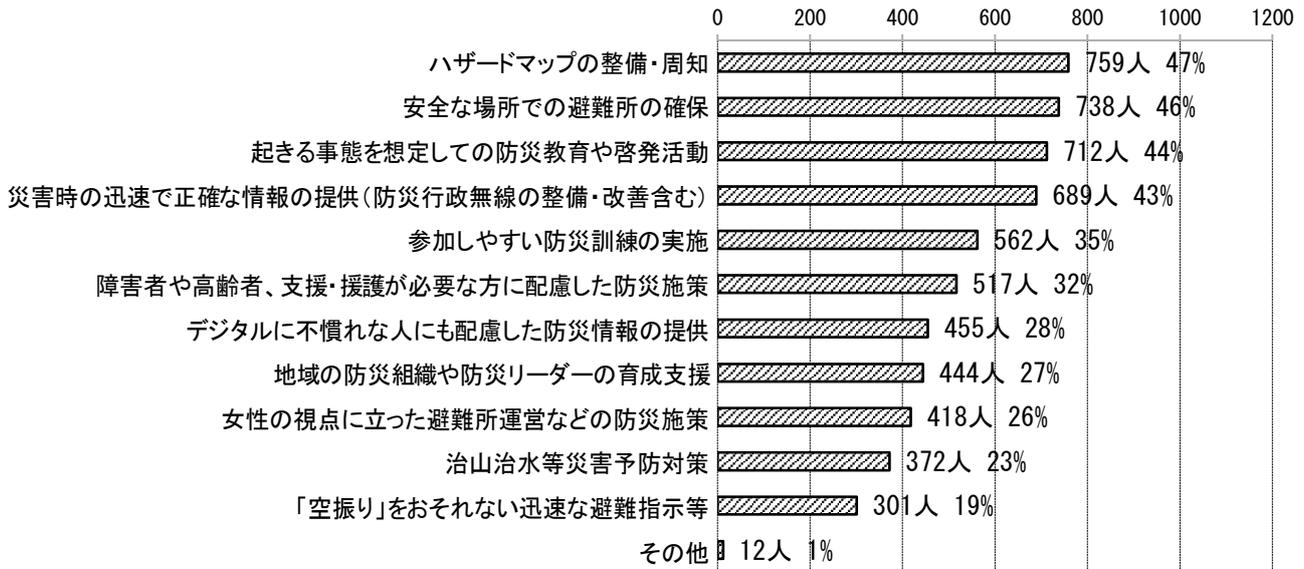
性別／年代別	人数	項目								
		安全な避難所の確保	安全な避難経路・方法の周知	災害発生をシミュレーションした避難訓練	非常用持ち出し品の常備の啓発	地域での緊急時連絡網の整備	自主防災組織の育成	防災士など、地域で防災リーダーとなりえる人材の育成	その他	
年代別	20歳未満	244人	127(52%)	100(41%)	107(44%)	63(26%)	56(23%)	41(17%)	21(9%)	4(2%)
	20代	164人	115(70%)	86(52%)	59(36%)	54(33%)	29(18%)	14(9%)	9(5%)	1(1%)
	30代	122人	79(65%)	61(50%)	42(34%)	42(34%)	16(13%)	25(20%)	16(13%)	0(0%)
	40代	196人	125(64%)	103(53%)	75(38%)	52(27%)	31(16%)	40(20%)	26(13%)	1(1%)
	50代	276人	174(63%)	139(50%)	107(39%)	80(29%)	69(25%)	59(21%)	32(12%)	1(0%)
	60代	258人	138(53%)	120(47%)	118(46%)	61(24%)	85(33%)	62(24%)	46(18%)	1(0%)
	70歳以上	347人	182(52%)	167(48%)	140(40%)	80(23%)	131(38%)	74(21%)	60(17%)	1(0%)
	無回答	9人	3(33%)	4(44%)	3(33%)	1(11%)	3(33%)	1(11%)	1(11%)	1(11%)
男女別	男性	555人	305(55%)	239(43%)	227(41%)	124(22%)	141(25%)	129(23%)	74(13%)	4(1%)
	女性	1,016人	614(60%)	524(52%)	408(40%)	301(30%)	265(26%)	183(18%)	128(13%)	4(0%)
	その他	6人	3(50%)	2(33%)	2(33%)	3(50%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)
	無回答	39人	21(54%)	15(38%)	14(36%)	5(13%)	13(33%)	3(8%)	8(21%)	1(3%)
全体	1,616人	943(58%)	780(48%)	651(40%)	433(27%)	420(26%)	316(20%)	211(13%)	10(1%)	

5. 行政に望むこと

問14 防災について、特に行政に望むことは何ですか。(5つまで)

全体では、「ハザードマップの整備・周知」47%、「安全な場所での避難所の確保」46%、「起きる事態を想定しての防災教育や啓発活動」44%、「災害時の迅速で正確な情報の提供」43%で、それぞれ半数近くを占めている。

年代別・男女別では、「障害者や高齢者等、支援・援護が必要な方に配慮した防災施策」「デジタルに不慣れな人にも配慮した防災情報の提供」においては50代以上及び女性が高く、「女性の視点に立った避難所運営などの防災施策」においては30代から40代及び女性が高い。



<年代別・男女別>

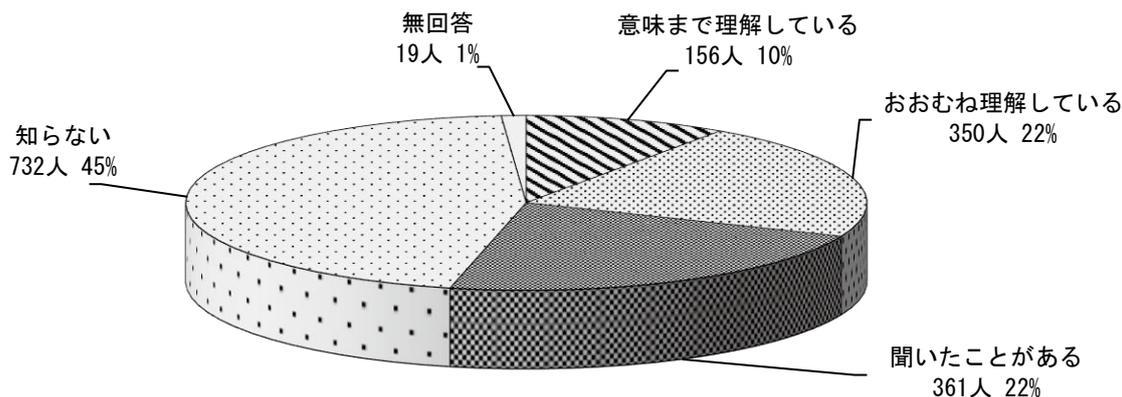
性別／年代別	人数	項目												
		周知ハザードマップの整備・	確安全な場所での避難所の	防起る教育や啓発活動しての	線報等の提供の迅速で正確な無情	実参加しやすい防災訓練の	慮援障者や高齢者等、方に支	供もデジタルに不慣れな人提	り地域の防災組織や支援防	所女性の視点に防立った避難	治山治水等災害予防対策	迅速な避難指示等	その他	
年代別	20歳未満	244人	101(41%)	93(38%)	114(47%)	71(29%)	60(25%)	46(19%)	43(18%)	44(18%)	46(19%)	47(19%)	45(18%)	2(1%)
	20代	164人	82(50%)	78(48%)	69(42%)	55(34%)	37(23%)	43(26%)	29(18%)	29(18%)	36(22%)	39(24%)	30(18%)	5(3%)
	30代	122人	67(55%)	63(52%)	51(42%)	53(43%)	35(29%)	29(24%)	20(16%)	36(30%)	44(36%)	40(33%)	32(26%)	0(0%)
	40代	196人	105(54%)	96(49%)	79(40%)	87(44%)	56(29%)	57(29%)	49(25%)	44(22%)	81(41%)	51(26%)	45(23%)	0(0%)
	50代	276人	130(47%)	134(49%)	118(43%)	130(47%)	76(28%)	103(37%)	97(35%)	78(28%)	72(26%)	53(19%)	48(17%)	3(1%)
	60代	258人	119(46%)	116(45%)	118(46%)	138(53%)	114(44%)	101(39%)	94(36%)	85(33%)	65(25%)	64(25%)	41(16%)	2(1%)
	70歳以上	347人	150(43%)	157(45%)	158(46%)	151(44%)	180(52%)	136(39%)	119(34%)	124(36%)	73(21%)	77(22%)	60(17%)	0(0%)
	無回答	9人	5(56%)	1(11%)	5(56%)	4(44%)	4(44%)	2(22%)	4(44%)	4(44%)	1(11%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)
男女別	男性	555人	241(43%)	252(45%)	232(42%)	233(42%)	177(32%)	153(28%)	128(23%)	167(30%)	64(12%)	119(21%)	113(20%)	7(1%)
	女性	1,016人	493(49%)	472(46%)	459(45%)	438(43%)	367(36%)	349(34%)	314(31%)	262(26%)	342(34%)	241(24%)	185(18%)	4(0%)
	その他	6人	1(17%)	3(50%)	3(50%)	2(33%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)	1(17%)	2(33%)	2(33%)	1(17%)	1(17%)
	無回答	39人	24(62%)	11(28%)	18(46%)	16(41%)	17(44%)	14(36%)	12(31%)	14(36%)	10(26%)	10(26%)	2(5%)	0(0%)
全体	1,616人	759(47%)	738(46%)	712(44%)	689(43%)	562(35%)	517(32%)	455(28%)	444(27%)	418(26%)	372(23%)	301(19%)	12(1%)	

6. エシカル消費について

問15 あなたは、エシカル消費という言葉を知っていますか。(1つ)

全体では、エシカル消費という言葉「意味まで理解している」10%と「おおむね理解している」22%を合わせると32%で、前年度調査の29%から3ポイント高くなり、認知度は3割に達した。一方、「知らない」は前年度調査と同じく45%で半数近くを占めている。

年代別では、「意味まで理解している」と「おおむね理解している」がいずれも20代が最も高い。一方、20歳未満と30代は、「意味まで理解している」と「おおむね理解している」を合わせるといずれも25%と低く、「知らない」がいずれも50%を超えている。



<年代別・男女別>

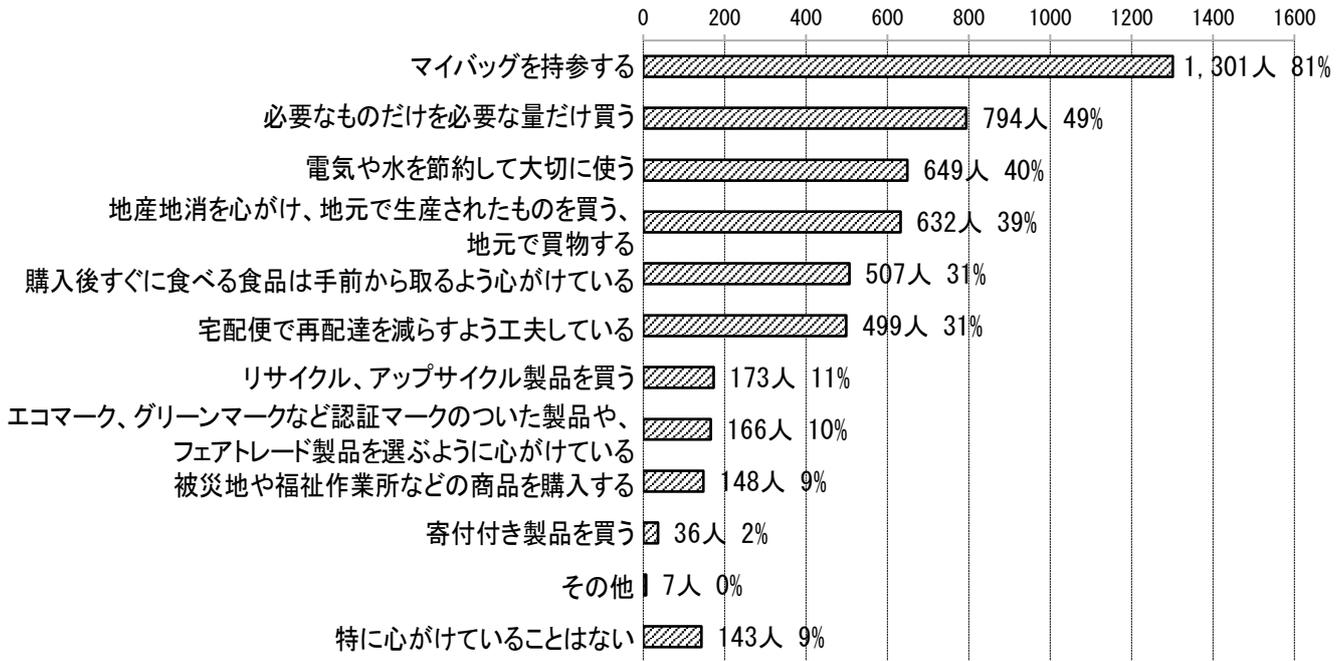
性別／年代別	人数	項目					意味まで理解している おおむね理解した または	
		意味まで理解している	おおむね理解している	聞いたことがある	知らない	無回答		
年代別	20歳未満	244人	22 (9%)	39 (16%)	55 (23%)	128 (52%)	1 (0%)	61 (25%)
	20代	164人	32 (20%)	43 (26%)	30 (18%)	59 (36%)	1 (1%)	75 (46%)
	30代	122人	10 (8%)	21 (17%)	28 (23%)	62 (51%)	1 (1%)	31 (25%)
	40代	196人	14 (7%)	44 (22%)	54 (28%)	84 (43%)	0 (0%)	58 (29%)
	50代	276人	29 (11%)	60 (22%)	67 (24%)	119 (43%)	1 (0%)	89 (33%)
	60代	258人	26 (10%)	63 (24%)	57 (22%)	110 (43%)	2 (1%)	89 (34%)
	70歳以上	347人	20 (6%)	78 (22%)	68 (20%)	168 (48%)	13 (4%)	98 (28%)
	無回答	9人	3 (33%)	2 (22%)	2 (22%)	2 (22%)	0 (0%)	5 (55%)
男女別	男性	555人	55 (10%)	103 (19%)	116 (21%)	279 (50%)	3 (1%)	158 (29%)
	女性	1,016人	95 (9%)	238 (23%)	234 (23%)	435 (43%)	15 (1%)	333 (32%)
	その他	6人	2 (33%)	2 (33%)	1 (17%)	1 (17%)	0 (0%)	4 (66%)
	無回答	39人	4 (10%)	7 (18%)	10 (26%)	17 (44%)	1 (3%)	11 (28%)
全体	1,616人	156 (10%)	350 (22%)	361 (22%)	732 (45%)	19 (1%)	506 (32%)	
令和5年度調査	1,718人	150 (9%)	350 (20%)	408 (24%)	777 (45%)	37 (2%)	500 (29%)	

問16 「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。(該当するものすべて)

全体では、「マイバッグを持参する」が81%と際立って高く、「必要なものを必要な量だけ買う」49%、「電気や水を節約して大切に使う」40%、「地産地消を心がけ、地元で生産されたものを買う、地元で買物する」39%、「購入後すぐに食べる食品は手前から取るよう心がけている」と「宅配便で再配達を減らすよう工夫している」がともに31%である。

年代別では、若い年代では実践率が低く、20歳未満では「特に心がけていることはない」が19%と他の年代に比べ高い。

男女別では、実践している各項目において、女性の方が高い傾向にあり、男性は「特に心がけていることはない」と回答した割合が女性の3倍となっている。



<年代別・男女別>

性別／年代別	人数	項目												
		マイバッグを持参する	必要なものを必要な量だけ買う	電気や水を節約して大切に使う	地産地消を心がけ、地元で生産されたものを買う	購入後すぐに食べる食品は手前から取るよう心がけている	宅配便で再配達を減らすよう工夫している	リサイクル、アップサイクル製品を買う	エコマーク、グリーンマークなど認証マークのついた製品や、フェアトレード製品を選ぶよう心がけている	被災地や福祉作業所などの商品を購入する	寄付付き製品を買う	その他	特に心がけていることはない	
年代別	20歳未満	244人	150(61%)	100(41%)	52(21%)	23(9%)	69(28%)	24(10%)	19(8%)	16(7%)	4(2%)	3(1%)	0(0%)	47(19%)
	20代	164人	120(73%)	83(51%)	59(36%)	32(20%)	54(33%)	41(25%)	13(8%)	7(4%)	5(3%)	2(1%)	0(0%)	24(15%)
	30代	122人	101(83%)	61(50%)	34(28%)	30(25%)	39(32%)	47(39%)	10(8%)	4(3%)	8(7%)	2(2%)	0(0%)	13(11%)
	40代	196人	161(82%)	96(49%)	75(38%)	79(40%)	59(30%)	72(37%)	22(11%)	19(10%)	21(11%)	5(3%)	0(0%)	13(7%)
	50代	276人	239(87%)	143(52%)	114(41%)	130(47%)	91(33%)	116(42%)	34(12%)	35(13%)	31(11%)	10(4%)	2(1%)	18(7%)
	60代	258人	232(90%)	133(52%)	124(48%)	130(50%)	67(26%)	93(36%)	36(14%)	33(13%)	27(10%)	5(2%)	3(1%)	12(5%)
	70歳以上	347人	291(84%)	174(50%)	187(54%)	205(59%)	124(36%)	101(29%)	38(11%)	50(14%)	51(15%)	9(3%)	2(1%)	15(4%)
	無回答	9人	7(78%)	4(44%)	4(44%)	3(33%)	4(44%)	5(56%)	1(11%)	2(22%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	1(11%)
男女別	男性	555人	367(66%)	243(44%)	210(38%)	144(26%)	135(24%)	128(23%)	54(10%)	42(8%)	31(6%)	12(2%)	3(1%)	84(15%)
	女性	1,016人	897(88%)	534(53%)	422(42%)	469(46%)	356(35%)	358(35%)	114(11%)	118(12%)	114(11%)	22(2%)	4(0%)	55(5%)
	その他	6人	5(83%)	1(17%)	2(33%)	2(33%)	3(50%)	2(33%)	0(0%)	1(17%)	1(17%)	0(0%)	0(0%)	1(17%)
	無回答	39人	32(82%)	16(41%)	15(38%)	17(44%)	13(33%)	11(28%)	5(13%)	5(13%)	2(5%)	2(5%)	0(0%)	3(8%)
全体	1,616人	1,301(81%)	794(49%)	649(40%)	632(39%)	507(31%)	499(31%)	173(11%)	166(10%)	148(9%)	36(2%)	7(0%)	143(9%)	

IV まとめ

1 調査結果のまとめ

令和6年能登半島地震に関して

- (1) 自宅の被害・影響については、「特に影響はなかった」と回答した人は56%で、44%の人は何らかの被害・影響があり、「家具・家電等の転倒、破損等(収納物の落下等を含む)」が29%、「建物の被害」が15%、「敷地の被害(塀の倒壊、液状化等)」が6%である。電気・ガス・水道のライフラインでは、「断水」が多い。
- また、「その他」として、「庭の灯籠の倒壊」や「墓石のずれ、転倒」「エレベーターの停止」などの被害も見られる。
- (2) 自身の被害・影響については、61%の人は「地震発生時、北陸地方にいたが、特に影響はなかった」と回答。また、「地震発生時、北陸地方以外の場所にいたので、特に影響はなかった」と回答した人が5%である。
- 年代や男女を問わず、20%の人が避難し、内訳は、「指定された避難場所等に一時避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に一時避難した」がともに9%、「指定された避難場所等に1日以上避難した」と「指定された避難場所等以外の場所に1日以上避難した」がともに1%である。
- (3) 能登半島地震によって受けた、物質的・精神的な面での影響について、全体では、「防災意識・対策の低さに気づいた」が63%と最も高く、「これまでの生活を見直すきっかけとなった」54%、「常に災害に対する不安を抱くようになった」35%と続く。
- 年代別では、70歳以上において、「思いがけない人から安否の連絡があった」「近所づきあいの大切さに気づいた」「一層の節電・節水を心がけるようになった」が、他の年代に比べ特に高い。
- 男女別では、「防災意識・対策の低さに気づいた」「これまでの生活を見直すきっかけとなった」という意識の変化において、女性の方が男性よりも10ポイント高い。
- (4) これらのことから、多くの人が自宅の被害や精神的な面等で影響を受けるなど、震災の体験は災害に対する意識の変化に大きな影響をもたらしたといえる。

災害・防災の意識などについて

- (1) 災害に対して自分の住む地域は、「安全」または「ある程度安全」と思う人は65%で、「危険」または「ある程度危険」と思う人(21%)の約3倍であり、年代別・男女別でも概ね同様である。

これを地域別に見ると、「平野部」では「安全」または「ある程度安全」が70%以上と高いが、「海沿い(海の近く)の平地」では「危険」または「ある程度危険」が57%と危機意識が高い。

- (2) 自分の住む地域で心配だと感じる災害としては、「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」がともに58%と高く、「強風・台風」46%、「豪雪・雪崩」29%と続く。

年代別でも、「豪雨・洪水」と「大地震・液状化」が高いが、年代が高くなるにつれ「強風・台風」の比率が高くなり、70歳以上では「強風・台風」が最も高い。

これを地域別に見ると、「豪雨・洪水」「大地震・液状化」「強風・台風」は、どの地域においても高く、特に、「川のそば」では「豪雨・洪水」が80%と突出して高いほか、「海沿い(海の近く)の平地」では「寄回り波・高波・津波」65%、「山間地」では「地滑り・土砂崩れ」77%が際立っている。

- (3) これらのことから、居住地域、災害の種類によって、災害リスクの感じ方には差があることがうかがえる。

災害に対する備えに関して

- (1) 能登半島地震発生前と発生後での災害への備えの状況では、いずれの項目も、地震発生後に準備・対策状況が高くなっている。

特に、「高い所に重いものは置かない」が64%、「非常用備蓄として食料や飲料水を確保している」が61%、「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」が61%と高く、地震発生前の40%台から大きく伸びている。

また、「安否の確認方法を決めている」「家の内外の危険箇所を確認している」「家具・家電等の転倒・落下防止の備えをしている」「非常用持ち出し袋を常備している」も、地震発生前の30%程度から50%程度へと大きく伸びている。

地震発生後の状況について見ると、「日頃から近所づきあいを密にしている」や「防災マップで避難場所、避難経路を確認している」などの項目をはじめ、60代以上において準備・対策している割合が高く、男女別では女性の方が高い傾向にある。

(2) 非常用持ち出し品として準備しているものでは、「懐中電灯」66%と「飲料水」62%が高く、「食料品」46%、「衛生用品」41%と続くが、一方で、15%の人は「何も準備していない」と回答している。

男女別では、女性の方が準備状況が高い傾向にある。

(3) 飲料水及び食品の家庭備蓄としては、飲料水、食品ともに「3～6日分」29%、「2日分」21%、「1日分」10%で、「1週間分以上」と回答した人は、飲料水では12%、食品では7%である。

一方で「準備していない」と回答した人は、飲料水では27%、食品では30%で、年代別では20歳未満、男女別では男性が、準備していない割合が高い。

(4) 大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えとしては、「大部分固定している」が12%、「一部しか固定していない」が41%で、合わせて約半数の人は多少なりとも転倒・落下防止の対応をとっているが、一方で37%の人は、「転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない」と回答している。

(5) 自分の住む地域のハザードマップ及び防災マップの認知度・活用状況は、いずれも約40%の人は「わかりやすくまとめられており、役に立てたい」と回答している。

一方で、ハザードマップでは33%、防災マップでは40%の人が「全く読んでいない」または「配布されていない、または知らない」と回答し、年代が若くなるほどその割合が高い。

(6) 豪雨、台風、地震など災害時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために活用したい方法としては、「テレビ」が81%で、各年代で最も高く、「インターネット上のニュース」57%、「ラジオ」41%、「行政(市町村)からの防災メール」37%、「防災アプリ」35%、「SNS」34%の順となっている。

「ラジオ」「行政からの防災メール」「新聞」は60代以上、「インターネット上のニュース」は30代から50代、「SNS」は30代以下で高くなるなど、年代によって情報の入手方法に特徴が見られる。

(7) これらのことから、能登半島地震発生後に、災害に備えた様々な準備・対策が高まっているが、準備・対策等をあまりしていない人や、避難行動の判断基準となるハザードマップ等を知らない、または活用していない人も少なくないといえる。

また、デジタル化への適応などの関係から、災害時における情報の入手方法は、年代によって異なる傾向にあるといえる。

自助、共助、公助に対する考え方について

- (1) 自然災害が起こった時の防災の三助（自助、共助、公助）の考え方としては、「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべき」が49%と約半数を占めているが、「自助」に重点をおくべき」30%及び「共助」に重点をおくべき」13%で、「公助」に重点をおくべき」7%を大きく上回り、各年代においても同じ傾向となっている。
- (2) 地域で必要と思われる防災の取組みとしては、「安全な避難所の確保」が58%で、各年代においても最も高く、「安全な避難経路・方法・手段の周知」48%、「災害発生をシミュレーションした避難訓練」40%と続き、避難に関する取組みが必要との回答が、全体的に高い。
- (3) これらのことから、災害時には「公助」だけに頼るのではなく、避難に関する取組みなど「自助」や「共助」の重要性を認識している人も多いといえる。

行政に望むこと

防災について行政に特に望むこととしては、「ハザードマップの整備・周知」47%、「安全な場所での避難所の確保」46%、「起きる事態を想定しての防災教育や啓発活動」44%、「災害時の迅速で正確な情報の提供」43%が上位を占めている。

また、障害者や高齢者等、支援・援護が必要な人や、デジタルに不慣れな人に配慮した対応について、50代以上及び女性の割合が高い。

エシカル消費について

- (1) 令和5年度から継続して調査を実施している「エシカル消費」についてお聞きしたところ、「エシカル消費」という言葉の認知度は、「意味まで理解している」10%と「おおむね理解している」22%を合わせると32%で、前年度調査の29%から3ポイント高くなり、認知度はようやく3割に達したが、「知らない」は前年度調査と同じく45%で半数近くを占めている。

一方、前年度調査で特に認知度が低かった20歳未満では、「意味まで理解している」9%と「おおむね理解している」16%を合わせると25%で、前年度調査の14%に比べ11ポイント高くなり、また、「知らない」は52%で前年度調査の70%に比べ18ポイント低くなるなど、20歳未満において認知度が上がった。

(2) 「エシカル消費」に関する具体的な行動で実践しているものでは、「マイバッグを持参する」81%、「必要なものを必要な量だけ買う」49%、「電気や水を節約して大切に使う」40%などとなっており、「エシカル消費」という言葉の認知度にかかわらず、実践している人が多いといえる。ただし、「特に心がけていることはない」と答えた人が20歳未満で19%いるなど、若い年代ではエシカル消費の実践の意識が低い。

また、男女別では、女性の方がエシカル消費の実践について高い傾向にある。

2 今後の取組み

(1) 令和6年能登半島地震では、富山県は観測史上初めて震度5強の揺れに見舞われ、また、津波警報の発令などにより、多くの県民が避難するなど、震災の怖さを経験したにもかかわらず、災害への備えなど防災意識が必ずしも高いとはいえない人もいることが、今回のアンケート調査でわかった。

このような状況を踏まえ、消費者協会及び消費生活研究グループ連絡協議会では、次のように取り組んでいきたい。

① 災害発生時には、まず、「自分の身は自分で守る」という「自助」の対応が求められることから、消費者協会の事業や消費生活研究グループの活動等を通じて、災害への備え、例えば、家庭で飲料水や食品を無理なく備蓄し、食品ロス削減にもつながる「ローリングストック」による家庭備蓄や、非常用持ち出し品の準備など、暮らしの中での防災の取組みについて、啓発等に努める。

また、「共助」による防災がうまく機能するためには、日頃の近隣住民とのコミュニケーションや地域行事への参加などが重要であることを呼びかけていく。

② 行政に対しては、「自助」「共助」「公助」のバランスを取るべき」と考える人が多かったことから、ハザードマップの周知や防災教育・啓発、災害時の迅速で正確な情報の提供などについて、様々な機会を通じて、こうした要望を伝えていく。

(2) 「エシカル消費」という言葉の認知度は、前年度調査よりわずかに上がり3割に達したが、「知らない」と答えた人も半数近くいる。

また、「マイバッグを持参する」「必要なものを必要な量だけ買う」などの行動は「エシカル消費」という言葉の認知度以上に実践されているが、一方で、「エコマークなど認証マークのついた製品やフェアトレード製品を選ぶ」「被災地や福祉作業所などの商品を購入する応援消費」などは低い水準にあることから、人や社会に優しいエシカル消費への理解が進むよう、消費生活研究グループの活動などを通じて、一層の普及啓発に努めていきたい。

V 回答者の意見

1 設問ごとの「その他」の意見

問1 能登半島地震による被害の有無や影響等についてお答えください。

(1) ご自宅（賃貸アパート・下宿・寮等を含む）について

- ・庭の灯籠の落下、アルミサッシが曲がる。（70歳以上 女性）
- ・敷地内コンクリートひび割れ数か所（40代 男性）
- ・クロス 一階～階段にかけてヒビ入った箇所多数（50代 女性）
- ・食器等の破損（50代 女性）
- ・エレベーターの停止（50代 男性）
- ・本等、高いところのものが落下（60代 女性）
- ・壁紙に亀裂（70歳以上 男性）
- ・庭の灯籠の倒壊（70歳以上 女性）
- ・庭石の崩れ（50代 男性）
- ・壁が剥がれ落ちた。（50代 女性）
- ・墓がずれた。（20代 女性）
- ・灯籠の転倒（60代 男性）
- ・部屋の壁に隙間（70歳以上 女性）
- ・墓が少し動いた。
- ・飾り物が倒れてこわれた。（70歳以上 女性）
- ・基礎巾木へのクラック（40代 男性）
- ・棚の上から落ちたものがあつたが、大丈夫だった。（70歳以上 女性）
- ・壁紙破損、鴨居の外れ等（50代 女性）
- ・壁にひびが入った。（60代 女性）
- ・4月1日より転居のため。（50代 男性）
- ・エレベーターが止まった。（40代 女性）
- ・外壁のひび程度（60代 女性）
- ・墓石が10センチほどずれた。（70歳以上 女性）
- ・水道管漏水（60代 男性）
- ・食器棚からガラスが落下（60代 女性）
- ・和室の壁がはがれた。（70歳以上 女性）
- ・庭の灯籠の被害（60代 女性）
- ・食器棚の器落下割れ（1つ）（60代 女性）
- ・外壁の基礎部分コンクリートのひび（70歳以上 女性）
- ・家の基礎部分にひび割れ（70歳以上 女性）
- ・庭の灯籠が倒れた。（60代 女性）
- ・屋根の瓦がずれた。（70歳以上 女性）
- ・外壁ひび割れ、人形ケース・花瓶破損 等（70歳以上 女性）
- ・障子紙が破れた。（70歳以上 女性）

- ・壁に少しヒビが入る。(70歳以上 男性)
- ・土壁ひび割れ(50代 女性)
- ・庭の灯籠がダメになりました。(70歳以上 女性)
- ・少しだけ室内のかべなどが落ちました。(70歳以上 女性)
- ・電話線損傷(30代 女性)
- ・壁、クロスの亀裂(60代 女性)
- ・灯ろうの転倒(70歳以上 女性)
- ・トイレの漏水(60代 男性)
- ・居間、二階の壁にひびが入る。(70歳以上 女性)
- ・和室壁にヒビ割れが生じた。(70歳以上 女性)
- ・ブロック塀倒壊(50代 女性)
- ・庭の灯ろうの転倒(70歳以上 男性)
- ・電気引込み線の損傷(70歳以上 男性)
- ・地面のひび割れ(70歳以上 男性)
- ・部屋等のクロスが破れた。(50代 女性)
- ・玄関の天井のクロスが少し破損(60代 男性)
- ・不安(20代 男性)
- ・庭の灯籠倒壊(60代 女性)
- ・少々の液状化現象(70歳以上 女性)
- ・壁紙のひび割れ(20代 女性)
- ・食器棚の中のガラスコップが棚から落下して割れた。(60代 女性)
- ・タイルや外壁の壁が落ちた。(60代 女性)
- ・井戸水の濁り。(60代 男性)
- ・エレベーターが止まった。(50代 男性)
- ・エレベーターの停止
- ・機械式駐車場の停止(30代 女性)
- ・エレベーター停止(50代 女性)
- ・家屋に破損箇所はあるが、大したことはなかった。(60代 女性)
- ・立体駐車場及びエレベーターの稼働停止(50代 男性)
- ・壁のヒビ、塀のヒビ(60代 男性)
- ・墓が倒壊(50代 男性)
- ・掛け時計が落下し、破損した。(50代 女性)
- ・物が、落ちてきた。(40代 女性)
- ・2階の物が落ちてきた。(40代 女性)

(2) ご自身について

- ・発生後、入社(40代 男性)
- ・勤務先に向かい、業務に当たった。(50代 女性)
- ・発生後、入社し、電話受付業務に従事した。(60代 女性)
- ・発生時、北陸地方にいて、ライフライン企業として入社した。(50代 男性)

- ・ 出社し、災害対応にあたった。(40代 男性)
- ・ エネルギー会社のため、出勤し、災害対応した。(50代 女性)
- ・ 義実家におり、ガラスなどが割れたが、机の下で待機した。(40代 女性)
- ・ 他のエリアに住む家族の家に避難した。(50代 女性)
- ・ めまいがしばらく続いた。(60代)
- ・ 睡眠障害になったが今では大丈夫(50代 女性)
- ・ 家で待機(60代 女性)
- ・ 発生後、緊急呼び出しにより避難した。(60代 女性)
- ・ 2時間ほど外で待機(60代 男性)
- ・ 自宅にいてテーブルの下に避難した。(70歳以上 男性)
- ・ 経験したことのない大きな地震で精神が不安定になって今に続いている。(70歳以上 女性)
- ・ 避難しなかった。(70歳以上 女性)
- ・ 怖かった。(70歳以上 女性)
- ・ 一時、社内に避難した。(70歳以上 女性)
- ・ 自宅(70歳以上 女性)
- ・ 会社に向かって災害対応にあたった。(40代 男性)
- ・ 発生後、出社(40代 男性)
- ・ 入院中(50代 男性)
- ・ 出社(50代 女性)
- ・ 駅前ホテルに泊まった。(60代 女性)
- ・ 被害のあったショッピングセンターにいてなかなか帰宅できなかった。(60代 女性)
- ・ 出勤し、災害対応に当たった。(40代 男性)
- ・ 公務により災害対応(40代 男性)
- ・ 高岡市で買い物中。帰宅に時間がかかった。(40代 女性)
- ・ 避難所が判らない為、とりあえず郊外へ避難した。(60代 女性)
- ・ 地震発生後、関係団体と連携し、災害支援に入った。(50代 男性)
- ・ 勤務中(50代 女性)
- ・ 自宅で待機(20歳未満 男性)
- ・ 親族の安否確認に行った。(50代 女性)
- ・ 地震後の日常はまたおそうのではと体調、気持不安定(70歳以上 女性)
- ・ 自宅にいたが無事だった。(60代 女性)
- ・ 自宅にいた。(60代 女性)
- ・ 指定された避難場所が閉じていたので家で待機(20歳未満 女性)
- ・ 家の片付けに追われていた。(70歳以上 女性)
- ・ 建付けが悪くなった。(70歳以上 女性)
- ・ 職員としてコミュニティセンターへ行く。(70歳以上 男性)
- ・ 入院中(50代 女性)
- ・ 後ろに息子の家がありますのでそこに居ました。(70歳以上 女性)
- ・ 家にいました。(70歳以上 女性)
- ・ 自宅にいた。(70歳以上 女性)
- ・ タワーパーキングに入庫できなかった。(40代 女性)

- ・自宅にいた。(70歳以上 男性)
- ・犬がいるので家にいました。(60代 女性)
- ・山間部へ避難した。(50代 男性)
- ・車の行列で避難所に行けなかった。(40代 女性)
- ・自宅にいた。(70歳以上 女性)
- ・マンションのエレベーターが使用できなかった。(70歳以上 女性)
- ・自宅にいた。(70歳以上 男性)
- ・自宅(60代 女性)
- ・駐車場やエレベーターがしばらくの間使用できなくなった。(40代 女性)
- ・自宅で(70歳以上 女性)
- ・地震対応のため職場に出向いた。(50代 男性)
- ・家の屋根うら部屋に5時間程避難した。(60代 女性)
- ・不安(20代 男性)
- ・避難はしなかったが、余震が続いたので、ガスの元栓を締め、玄関に近い部屋に家族で集まり、情報を検索していた。(50代 女性)
- ・家にいた。
- ・少し棚のものが落ちたぐらい。
- ・そのまま家で情報をテレビで得ながら居ました。(60代 女性)
- ・親戚の家に一時避難した。(40代 女性)
- ・自宅にいて、避難しなかった。(20歳未満 女性)
- ・災害対応のため出社した。(20代 男性)
- ・休日であったが、勤務地に出向き災害対応にあたった。(50代 男性)
- ・災害対応にあたった。(20代 女性)
- ・高速道路が通行止めとなったため、帰宅が遅れた。(30代 女性)
- ・職場に行き、対応に当たった。(30代 女性)
- ・地震を機に目眩がでて、通院した。2週間後回復。(70歳以上 女性)
- ・親戚の家に1泊した。(50代 女性)
- ・仕事柄、発災後速やかに事務所に出勤し、県内の情報収集を実施した。上司と交代で勤務したが、休暇に毎日、出勤し続け、子供が帰省していたにも関わらず、一緒に居れなかったことが精神的に非常につらかった。(60代 男性)
- ・休みだったが、勤務先で災害対応にあたった。(50代 男性)
- ・高速道路が通行止となり、一般道しか利用できなかった。(40代 男性)
- ・特になし。(50代 女性 他6名)

問2 能登半島地震によって、あなたは物質的な面や精神的な面でどのような影響を受けましたか。

- ・義援金や支援金など地震以外の募金も、箱をみつけたら募金するようになった。(40代 女性)
- ・家を建て替えることになった。(50代 女性)
- ・避難場所が浸水エリアであり、本当にこの場所に避難して大丈夫か不安。(50代 女性)

- ・防水グッズ入りリュックを購入した。(50代 男性)
- ・子供たちが学校やその他の場所にいるときの避難の仕方について話し合うきっかけになった。(30代 女性)
- ・当日温泉に宿泊していたので、今後元日は外出を止めようと思った。(30代 女性)
- ・息子が金沢から帰宅する電車が停まり、最寄駅まで迎えに行った。(20歳未満 女性)
- ・防災対策を見直すきっかけとなった。
- ・町外からの避難者が多く出ることを知った。(40代 男性)
- ・BCPの見直し(50代 男性)
- ・災害に備えて自主防衛を考えるようになった。(70歳以上 女性)
- ・空家になっていた実家の解体を決断した。(60代 女性)
- ・今まで富山は安全だと思っていましたが、認識を新たにしました。(60代 女性)
- ・親子の連携が深まった。安否確認の日を決めた。(日曜日21時)(70歳以上 女性)
- ・富山県でも大きな地震が発生すると気づいた。(70歳以上 男性)
- ・年末に家族が倒れ、地震どころではなかった。病院は大変そうであった。(40代 男性)
- ・子供が情緒不安定になって、家の中でも1人で他の部屋へ行けない、オネショをする等影響があった。ライフライン企業のため地震発生時から出社しており、自身も疲労困憊だったため、こどもの情緒不安定も重なり大変だった。(30代 女性)
- ・ペットとの避難方法を考えたが、マイカーでの生活しか思い当たらなかった。とりあえず、ゲージを購入した。(60代 女性)
- ・精神的ストレスを受けた。(50代 女性)
- ・通信障害対策にポケットWi-Fiが役にたつと改めて感じました。ただ、充電がないと意味がなく、モバイルバッテリーも常に使える状態で持ち歩くようになりました。スマホは今やライフラインです。格安SIMやWi-Fiを扱う仕事だからこそ、その大切さをより感じました。(40代 女性)
- ・職場の管理者として、自身の危険よりも優先することがあるかもしれないと感じた。(50代 男性)
- ・特になし(40代 男性 他15名)

問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。

- ・津波(50代 女性)
- ・運河沿いに住んでおり、大雨や津波の逆上が大変心配(50代 女性)
- ・近くにガス会社あり(70歳以上 女性)
- ・噴火
- ・河の氾濫(50代 男性)
- ・劣化している空家(60代 女性)
- ・ズック、笛(60代 男性)
- ・川の氾濫(20代 女性)
- ・川の氾濫(20歳未満 女性)
- ・噴火(20代 男性)
- ・海に近いため、津波が心配(50代 女性)

問5 災害への備えとして、あなたの準備・対策の状況を、能登半島地震発生前と発生後についてお答えください。

※能登半島地震発生後に、設問項目以外に新たに始めた準備・対策等があれば、ご記入ください。

- ・家の周りをよく見まわるようになった。(70歳以上 女性)
- ・ご近所さんとのコミュニケーション頻度が増えた。(70歳以上 女性)
- ・遠くへ行かない。旅行もしない。家を片付ける。お酒はノンアルコールで。(70歳以上 女性)
- ・持ち出しリュックを玄関横など出しやすいところへ移動させた。(30代 女性)
- ・車内に予備の靴。子供の退屈しのぎになるもの。(30代)
- ・車のガソリンを常に満にしています。(60代 女性)
- ・非常用持ち出し袋、リュックを追加購入(50代 男性)
- ・携帯電話を枕元に置くようになった。(60代 女性)
- ・必要最低限の着替えなど(70歳以上 男性)
- ・なるべくいらぬ不用品は処分しています。(70歳以上 女性)
- ・非常用持ち出し物の追加(70歳以上 女性)
- ・ガスコンロ用のガス補充、常に携帯の充電をフル状態に。災害時の身の守り方を子供と確認
(40代 女性)
- ・非常用持ち出し袋の点検をした。(70歳以上 女性)
- ・貴重品をまとめた。(40代 女性)
- ・非常用ライフラインの確保(30代 男性)
- ・住居の耐震化工事の準備(60代 女性)
- ・食料飲料水の備蓄(70歳以上 女性)
- ・マップの確保、確認(70歳以上 男性)
- ・非常用リュックを取りやすい位置に移動(70歳以上 男性)
- ・地震保険の加入を考えている。(60代 男性)
- ・漏水改善工事(60代 男性)
- ・家族の安全が確認できれば、近所、町内の安全の確認をしたい。(70歳以上 男性)
- ・衣類、薬の常備(50代 女性)
- ・地震保険加入の検討中(50代 女性)
- ・日頃から整理整頓に努めなければと思った。(50代 女性)
- ・倒れやすい物の固定(60代 男性)
- ・病院で処方してもらっている薬の予備を5日分増やしてもらった。(60代 女性)
- ・非常時用の簡易トイレ(携帯用)の購入(60代 女性)
- ・古くなっていて風で飛ばされそうな波板小屋を修理してもらった。(70歳以上 女性)
- ・各種団体を連携して再度防災学習会(70歳以上 女性)
- ・非常用持ち出し袋(リュック)に常備品多めに入れている。(40代 女性)
- ・風呂の水をためおきした。(50代 女性)
- ・非常用品の持ち出し袋を準備した。(70歳以上 女性)
- ・車で避難して普通15分で行く所、1時間半かかりトイレに困りバッグに紙おむつを持ち歩くことにした。(70歳以上 女性)
- ・避難経路、場所の確認(40代 女性)

- ・非常持出を再整理した。町内の人に水の確保のためペットボトルを増やした。(70歳以上 男性)
- ・能登半島地震では、正月明けだったこともあり、学校や避難場所が空いておらず、避難しようにもできない状況だったので、家の中で一番安全な場所を探した。(20歳未満 女性)
- ・父等のワインやお酒のボトルの場所を考えた。(20歳未満 女性)
- ・防災アプリを見れるようになった。(60代 女性)
- ・家具を低い物にするといいと思うが、実行までに至っていない。(70歳以上 女性)
- ・避難所運営に意識をもつようになった。(60代 女性)
- ・非常食の準備 (60代 女性)

問6 非常用持ち出し品として準備しているものは何ですか。

- ・カセット、コンロ、紙皿 (50代 女性)
- ・寝袋、敷物(寝袋の) (60代 女性)
- ・非常用リュックがあるだけ (30代 女性)
- ・軍手、ラップ、新聞紙 (30代 女性)
- ・ペット関連 (40代 男性)
- ・キャンプグッズ (30代 女性)
- ・水を入れるポリタンク(折りたたみ) (50代 女性)
- ・ペット用品トイレごはん等 (40代 女性)
- ・カイロ (70歳以上 女性)
- ・ペット関連の品 (60代 男性)
- ・カイロなど身体を温めるもの (40代 女性)
- ・毛布 (50代 女性)
- ・給水バッグ、滑り止め手袋 (70歳以上 女性)
- ・ローリングストック (60代 女性)
- ・ポータブルバッテリー (50代 男性)
- ・銀の風除けシート (60代 女性)
- ・新聞紙、タオル (70歳以上 女性)
- ・ナイロン袋、ろうそく、新聞紙 (70歳以上 女性)
- ・非常用品が一式入ったリュック (50代 女性)
- ・ペットのえさ、砂、シート (60代 女性)
- ・スマホ充電器
- ・無線 (50代 男性)
- ・エチケット用品(ナプキン、おむつ) (20代 女性)
- ・充電器、ペットのえさ・ケージ、雨具 (20代 女性)
- ・テント (60代 女性)
- ・保湿シート、スリッパ (40代)
- ・ラップ、ホイル、寝袋 (30代 女性)
- ・おむつ (30代 女性)
- ・乾電池、携帯充電器、新聞紙 (70歳以上 女性)

- ・ペット避難グッズ (50代 男性)
- ・防災シート (60代 女性)
- ・モバイルバッテリー充電している。(20代 男性)
- ・モバイルバッテリー (60代 女性)
- ・ハンマー (60代 女性)
- ・スマホ (70歳以上 女性)
- ・すぐ持ち出せるように少しはまとめてある。(70歳以上 女性)
- ・使いすて用紙コップや大皿、小皿、ラップ、はし (40代 女性)
- ・使いすて皿、はし、コップ、ラップ、タオル (30代 女性)
- ・今から少しずつ考えて準備していくつもり (70歳以上 女性)
- ・着替え (70歳以上)
- ・エアマット、寝袋かわりの毛布、ごみ袋 (50代 女性)
- ・携帯電話 (60代 女性)
- ・マンションなので (70歳以上 女性)
- ・タオル、新聞紙、ボウクウズキン、スリッパ (70歳以上 女性)
- ・銀色のからだをつつむシートのようなもの (60代 女性)
- ・靴下、雨合羽、汗拭きシート (40代 女性)
- ・新聞紙、防寒具 (50代 女性)
- ・古いメガネ (70歳以上 男性)
- ・発電機、燃料 (50代 男性)
- ・Wi-Fi、充電器 (40代 女性)
- ・使い捨てコンタクト (コンタクトの人はメガネも持ち歩かないと目がカピカピになりますね。)
(40代 女性)

問11 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。

- ・防災ラジオ (60代 男性)
- ・行政のアナウンス (40代 女性)
- ・集合住宅(町内会)単位のSNS (50代 女性)
- ・川の防災情報 (20代 男性)
- ・防災無線(市役所から依頼設置) (70歳以上 男性)
- ・Youtube (20歳未満 女性)
- ・ライン (20歳未満 女性)
- ・テレビラジオは利用するがあまり信用はしない。大げさだったり、現地のことを分かっていないのに騒ぎ立てるから。(50代 男性)
- ・新聞社のニュースサイト (50代 男性)

問12 自然災害が起こった時に、「自助」「共助」「公助」のどれに重点を置くべきと考えますか。

- ・「自助」と「公助」を重点に(両立) (50代 男性)
- ・どのような災害かで違って来るし高齢になると移動が無理になる。 (70歳以上 女性)
- ・老人になると、地域、公的の支援が必要。 (70歳以上 女性)
- ・共助、公助に重点をおくべき。 (70歳以上 女性)
- ・第1は自助、第2に共助、第3に公助 (30代 女性)
- ・病弱な夫は守ってやりたい。 (70歳以上 女性)
- ・御近所さんの大切さを確認しました。 (70歳以上 女性)

問13 防災について、地域で必要な取組みは何だと思えますか。

- ・同一ではなく地域に合った対策
- ・地域での防災についての学習会を行う。 (60代 女性)
- ・正確な情報の入手 (50代 男性)
- ・例えば避難所に一番最初に着いた人誰でもが避難所開設の運営の初動を担えるようなプロトコルを定めること。防災士の人やリーダーとされる人の到着まで混乱を軽減するようなことを定めておく。ただし、その「最初に着いた人」が責任を負う必要はなく、また「最初に着いた人」は避難所の近隣住民であることを想定しない。通りがかりの避難者であることも想定する。
(40代 女性)

問14 防災について特に行政に望むことは何ですか。

- ・安全、安心、快適な避難所の確保 (50代 男性)
- ・避難所の迅速な開設 (20代 女性)
- ・タイムラインの普及・啓発 (60代 男性)
- ・インフラ整備(道路河川の補修、避難所施設の充実) (20代 男性)
- ・住民の避難等だけに頼らない行政の早い決断と行動。(例えば以前の大雪の時に何本もの幹線道路がストップしたが、そうならないための早めの除雪車の投入などの決断と行動) (60代 男性)

問16 「エシカル消費」に関する具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。

- ・着用しなくなった服をリサイクル品として出している。 (50代 女性)
- ・買い物をあまりしない。 (60代 男性)
- ・エシカル消費とは関連しないかもしれないが、貰い物が多く、乾麺など消費出来ないものについては「フードドライブ」に持ち込み消費をお願いしている。このような「フードドライブ」の回収拠点が富山県内に多く出来れば良いと考える。 (60代 男性)
- ・エコドライブ (70歳以上 男性)

2 自由意見

防災について

○ 防災・災害に対する意識

- ・防災には身構えるようになった。(70歳以上 女性)
- ・「災害は忘れた頃にやってくる」は、今や死語。今年は元日から輪島地震。このアンケートを記入しながら、防災対策がなされていない自分に気づかされた。(70歳以上 女性)
- ・能登半島地震で防災意識は高まるが、一方で行動に移すことができている人は少ないと思う。セミナー等あれば積極的に参加したい。(20代 男性)
- ・能登の地震を経験し、日ごろから備えておく必要性を感じた。(30代 女性)
- ・地震が起きた時はこわいなと思ったが、だんだん普通の日常の戻ってくると、防災などをあまり意識しなくなるといった。(20歳未満 女性)
- ・富山県民は災害に対する意識に差があると感じる。特に、高齢者は能登半島地震の際も慢心して地震や津波から逃げようとしなかった人が一定数いると聞いた。(20歳未満 女性)
- ・能登半島地震で防災について今一度確認するきっかけとなりました。(20歳未満 男性)
- ・地震を経験して防災を意識するようになった。(20歳未満 女性)
- ・富山県を安全だと思っている人は多いと思うので、もっと防災に関する知識を身に付けなければならぬと思った。(20歳未満 女性)
- ・もっと防災に対する意識を高めたいと思う。(20代 女性)
- ・一人ひとりが防災やエシカル消費を意識することが大切だと思った。(20歳未満 女性)
- ・初めてこんなにも大きい地震を体験したので、改めて防災に対しての意識を高めて行きたいと思う。(20歳未満 女性)
- ・もっと防災を心がけたいと思った。(20歳未満 女性)
- ・備えに対する意識を高めることが必要だと思うので、理解して取組みたい。(50代 女性)
- ・大きな地震だったので、災害に対する意識が高まったと思います。(20歳未満 女性)
- ・常に危機感を持って、生きたい。(20歳未満 女性)
- ・防災については、今回の地震でより危機感が高まった。(20代 男性)
- ・自分や家族など大事な人の命を守れるように普段から気をつけたい。(20歳未満 女性)
- ・防災意識はとても大切。自分の身を守るためにも、防災意識を高めたい。(20歳未満 女性)
- ・しっかりしなければいけない。(20代 女性)
- ・地震の影響を受けてより一層防災に対する意識が高まった。(20代 男性)
- ・防災は、知識をつけるべきものであり、常に行動を起こせるように準備を怠ってはいけぬと考える。(20代 男性)
- ・もっと防災を心がけたいと思いました。(20歳未満 女性)
- ・「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉もあり、常日頃から備えをしておくことの大事さを痛感しているところです。(60代 男性)
- ・防災の意識を高めて、災害があったときに備えておこうと思った。(20歳未満 女性)
- ・今回の地震を通して意識が変わった。(20歳未満 男性)
- ・防災は大切だという事が改めて感じた。(20歳未満 女性)
- ・能登地震後、地震や災害など、身近に感じるようになった。(50代 女性)
- ・防災意識を高める必要があると思いました。(20歳未満 男性)

- ・能登半島地震のような大きな地震に初めてあって、家族みんなすごく動揺したので、今まで防災に対する意識が足りていなかったなと痛感した。日頃から防災に高い意識をもっておきたいと思った。（20歳未満 女性）
- ・今回のアンケートで、また災害の怖さを思い出し、もう一度考え直すきっかけができました。避難訓練やハザードマップ、防災マップの説明会など参加しなくてはいけないと思いました。（60代 女性）
- ・災害はいつ起きるか分からないから日頃から対策していく必要があると能登半島地震をきっかけに感じるようになった。（20歳未満 女性）
- ・地震後から少し災害がまた起こった時の事を考えるようになった。（20歳未満 女性）
- ・防災は被害に遭う体験をしないと、見る聞くだけでは本当の防災意識が高くないと思う。（70歳以上 男性）
- ・冷静な判断と考える力が必要。（20歳未満 男性）
- ・焦らないことが大事だと思う。（20歳未満 男性）
- ・油断せず行動したい。（20歳未満 女性）

○ 災害への備え

- ・緊急時に必要なものを備えておけるよう日頃から意識する。（30代 女性）
- ・防災は備えが不十分なので、意識して備えたい。（40代 女性）
- ・いつ起こるか分からない災害に対して常に準備しておくことが大事。（40代 男性）
- ・防災に関しては、備えておくということは自分もだけど頭の中で分かっているけど行動に移していない人が多いと思うので、もっと備えに対してのハードルが下がるようなことがあれば知りたいと思った。（20歳未満 女性）
- ・防災に対する準備が重要だと思った。（20歳未満 女性）
- ・いまいちど家の危険な場所などを確認しておきたいです。（20歳未満 女性）
- ・しっかりと備えておく必要があると思う。（20歳未満 女性）
- ・防災はやって損になることは全体にないと思うが、全員がやっておくべきことだと思った。（20歳未満 女性）
- ・能登の地震で災害を身近に感じ、普段からの備えは大切だと再確認しました。（50代 女性）
- ・非常用持ち出し袋を準備したいと感じた。（20歳未満 女性）
- ・日常からハザードマップや非常用の持ち出し袋を用意しておいた方がいいと思った。（20歳未満 女性）
- ・レトルト食品の購入を意識するようになった。（60代 女性）
- ・日々の備えを怠らない。（20歳未満 女性）
- ・災害に備えて準備しておく必要がある。（20歳未満 女性）
- ・日頃から避難経路を確認しておく必要があると思う。（20歳未満 女性）
- ・非常用持ち出し袋を準備したいと感じた。（20歳未満 女性）
- ・避難場所や危険な場所を知っておく必要があると思った。（20歳未満 女性）
- ・いざという時に備えて防災リュックを作ろうと思いました。（20代 女性）
- ・防災に関しては多少備えはあったが、今回のアンケートにて足りないものも見えてきたため、考え直すことを決めました。（40代 女性）
- ・いつ起きてもいいように準備しておくのが大事だと考えている。（20歳未満 男性）
- ・災害は避けられないと思っているので常にいつきてもいいように、備えておきたいです。（20歳未満 男性）

- ・能登半島地震を機に、万全な備えの重要性をますます感じた。(20代 女性)
- ・防災はやりすぎることがない。空振りを怖がらず、無駄にならないようにローリングストックで備えていきたい。(70歳以上 女性)
- ・アンケートを通して、自分自身の防災に対する備えが、全くダメであることを再確認しました。(60代 女性)
- ・実際に災害はいつ起こるかわからないので、焦ってすぐには準備できないのでいまのうちに日頃から防災グッズや必要なものをまとめてく心がけが大事だと思いました。(20歳未満 女性)
- ・非常用持ち出し袋を準備しなくてはいけないと感じた。(20歳未満 女性)
- ・しっかりと準備しておく必要があると思う。(20歳未満 女性)
- ・発災時に備えて「非常食」や「水」を少なからず備蓄している。しかしながら、両方共に消費期限があり、つい期限までに消費せず廃棄することが多い。近頃では消費期限が無い「水」も出てきたと聞いているが、もっと安価な消費期限の相当長い「水」「非常食」が出来上がったら助かる。(60代 男性)
- ・今回の能登半島地震を体験し、いつどこで何が起こるかわからないことを実感し、まずは災害に対して自身で出来ることを考え準備したい。(70歳以上 女性)
- ・これから地震だけでなく洪水や豪雪に備え普段から飲用水、食料品を準備しておくことが大事だと思った。避難所が災害時機能する様、備品などの費用を国がさらに負担するべきだと思う。(30代 男性)

○ 避難関係

- ・震災が起こった時に車で移動、避難はしないように心がけたいと思います。(60代 男性)
- ・数年前に、町内の避難場所として校区内の中学校の見学説明会に参加したが、今回の地震当夜に行ってみると真暗で誰もおらず、後日小学校だけが避難所として開かれていたと知った。防災マップにも載せ、地域で見学会までしているのに、避難所として開かれていないとなると、行政や地域からの情報も信用してよいものかと疑問に思った。(50代 女性)
- ・能登地震があった時、すぐに某大学に避難しようとしたが、受付の人に「指示がないため、開放できない」と言われた。津波警報が出ていたこと、災害備蓄品もあることを知っていたので、行ったのに、学生証を持っている人しか入れず、指定避難場所の意味とは？と思った。緊急のときには、指示がなくても、各現場の判断で、安心安全な場所に避難だけでもできるようにしてほしい。(30代 女性)
- ・緊急時の連絡網、安全な避難所、経路方法、手段を周知する為に、重点箇所看板を立てる。(60代 男性)
- ・ハザードマップの津波に関する注意喚起の図面の信用性が不安です。海岸に近く住んでいる場合、徒歩で避難場所にむかっても間に合わないのではないかと不安、津波警報がなっているのに海に向かう経路は不安。かといって車で遠くに行っても渋滞するので不安、家にも建物や地盤が不安です。お金に余裕があるわけじゃないし、引越できるでもないので生き抜くために国、市町村の力を貸してほしい。(40代 女性)
- ・交流センターに避難所を設けるべきだ。(70歳以上 女性)
- ・高齢者の避難対策をどうしたらいいのかわかりません。父もなかなか歩けなくて地震の時は、連れて出すことが厳しかったです。近所にもご高齢夫婦や一人暮らしの方々おられ、避難場所もすぐに行けるようにはありません。落ち着いてから地区の班長さんが見回られましたが、不安だったようです。(60代 女性)
- ・女性視点での防災避難所を進めていただきたい。(50代 男性)

- ・避難所への情報提供をある程度迅速にさせていただくと避難者が安心できると思う。災害時の情報提供体制を行政で検討していただきたい。(50代 女性)

○ 自助、共助、公助

- ・「自助」に重点をおくことを一人ひとり意識すれば、それが「共助」につながり、「公助」の負担も軽減されると思う。(50代 女性)
- ・個々人で出来る事は、常日頃から意識して行い、有事の際は、助け合いの心で協力すべきだと思う。(30代 男性)
- ・共助を大切にしたい。自助ばかり求められると自分さえよければという風潮になるのではないかと、危惧している。(50代 女性)
- ・高齢の為マンション住まいの生活ですが、戸建に住んでいた様に、となり近所づき合いが必要と思いました。マンション住まいでは難しいですか？(70歳以上 女性)
- ・災害時に自分の身を守れるようにしておく。(20歳未満 女性)
- ・防災についてはお任せは絶対にダメだが、頼ることをためらってはいけないと思う。自助努力で共助の機運や体制を高める必要はあると思う。(50代 男性)
- ・今迄災害の少ない地域であったが、これからは、何時、どこで災害が起こるか予測できない。周りはお年寄りと空家でいざ、災害となっても、行政を待つわけにもいかない。お年寄り同士で助け合わなければいけなくなっている、東北に「津波てんでんこ」という言葉があるように、自分の身は自分で守れるように、普段から防災意識を高め、隣近所助け合う体制が必要と思う。不安があるが、どうしたらよいか分からない人もいる。行政は、住民の防災意識を高めることに力を注いでほしい。いざ災害の時点で迅速な対応ができるようにと願う。
(70歳以上 女性)
- ・街中では、地域で協力したいが、高齢者が多く、疎遠となっていることを前提とした対応が必要。(60代 男性)

○ 防災訓練等

- ・最近、避難訓練が実施されていない。(町、町内を含む)地域の防災担当の人は、防災倉庫の備品の点検をしているのだろうか。特に発電機は、いざ必要になった時のために、定期的に点検しなければならないと思う。(公の防災倉庫の備品のことではなく、地区に置かれている防災倉庫のことである。)(70歳以上 女性)
- ・赤十字主催で避難所の受け入れ訓練を受講。大変役に立ってかつ考えさせてくれて、良かったので広めてほしい。(70歳以上 女性)
- ・子どもたちは学校で、会社員は職場で避難訓練をしていると思いますが、今回のような地震のように、休日自宅で被災することを想定して、避難場所の小学校単位などで避難訓練をしてみたいです。平日ではなく、土日など家族総出で訓練できるように。大規模で大変かもしれないけれど、大切なことだと思います。(30代 女性)
- ・防災講座で初めて非常用トイレの使用方法を学んだ。とても、大切なことと思った。
(70歳以上 女性)
- ・当町内では防災士がおられて年に1回はしっかり講座を開催して下さるので意識は高まっていますが、現実とのギャップがあるのでは…。非常用持ち出しリュックも重くていざという時持ち出せるか心配です。(70歳以上 女性)

○ その他

- ・一人で生活している人は、自発的に周囲と係わりを持っている人でも、大きな災害が起きた時にすぐに誰に何を伝えて助けを求めればいいのか不安になるので、明確な頼れる指示がもらえる連絡先が周知されるといいなと思います。(40代 女性)
- ・議員がいる地域といない地域での物質の支援の差はないようにしてください。今回あった。(40代 女性)
- ・家屋の耐震補強をしたいが、高齢者世帯なので実際はむずかしい。(60代 女性)
- ・ハザードマップのまめな更新、避難経路なども見直す。(60代 女性)
- ・継続的に情報提供を。(70歳以上 女性)
- ・区域ごとのハザードマップを望む。
- ・能登半島地震の時、携帯・スマホの緊急地震速報は機能しなかった。通信インフラの整備をしっかりしてもらいたい。(50代 男性)
- ・いつ、どこで災害が起きるか予測できない世の中になっている。周りを見ても、お年寄りが多く、自分もその一員。犬、猫を飼っているので、共に逃げ遅れるのではと不安が一杯。日頃より連絡を取り合えるよう携帯番号をメモしていつでも取り出せるよう、気が付いたのはそれ位。懐中電灯は常に周りに用意している。(70歳以上 女性)
- ・とても良いアンケートだと思う。いつ来るのか分からない災害です。意識をもって行動したいと思う。このアンケートの結果を教えてほしい。どのように案内されるのか。
- ・1月の地震では、避難行動に出た人が多く、驚くと同時に、実際の災害を報道などで目にした経験が大きいのだと実感した。眼で、耳で、繰り返しの啓発が必要で有効だと思う。(60代 女性)
- ・防災については、何時起こるか分からない災害に対して出来る事を準備している。自分の親世代が、災害があった時に身体的にも、情報的にも孤立するのではないかと心配している。親族がいない方々も助けられる社会を作ってほしい。(50代 女性)
- ・防災マップは読んでいないが、私の避難場所は知っている。(70歳以上 女性)
- ・身体の不自由な独居老人は、災害が発生した場合誰が救助に行くのか避難場所も理解していないのが心配。(70歳以上 女性)
- ・防災について災害地で起きた困った事例などをもっと地域で共有すべきではないか。そこから各自に意識、準備が出来ていくのではと思う。(70歳以上 女性)
- ・がんばろー。(20歳未満 男性)
- ・ご近所であっても家族構成を知らない事に危機感を覚えます。いざ避難！となった時に、声を掛けそびれて逃げ遅れる方がいるのではないかと怖くなります。(50代 女性)

エシカル消費について

○ エシカル消費の理解・意識

- ・エシカル消費についてはまだまだ勉強が必要だと感じました。(70歳以上 女性)
- ・今回、「エシカル消費」を初めて知りました。これから、生活をしていく上でとても大切なことだと思います。このことについて、いろんな所(職場、家庭、地域の集い等)で話題にのぼればいいな、とも思いました。(60代 女性)
- ・エシカル消費の認知度を上げる工夫が必要だと思う。(50代 女性)
- ・エシカル？分りやすい日本語で表記してほしい。(20歳未満 女性)

- ・エシカルという用語を初めて聞いた。今後、意識したい。(60代 男性)
- ・エシカル消費は私たちが生活する上で、必要なSDGsの目標に対して近道だと思うので、これからの発展する社会に必要なものであると思います。(20歳未満 女性)
- ・エシカル消費という言葉はこのアンケートで初めて聞いたので、もっと言葉の意味や具体的な例も広まれば良いと思う。(20歳未満 女性)
- ・エシカル消費を意識した買い物が重要だと思った。(20歳未満 女性)
- ・日頃から意識する人が1人でも増えてくれたら良いと思いました。(20歳未満 女性)
- ・何なのか知らない。(20歳未満 男性)
- ・カタカナ語が増えて都度スマホで調べはするもののエシカル消費という言葉は使ったことがなく、勉強になりました。(70歳以上 女性)
- ・意味を理解し、意識していきたい。(20代 男性)
- ・生きていく上で今まで今からも地球上の生きている人間や動物はもちろんすべての生き物にとって大切に考え、ずっとこの事を大事に未来に続けていかなければと!!(70歳以上 女性)
- ・エシカルとは?(50代 女性)
- ・もう少しエシカル消費について理解が深まれば良いと思う。(20代 女性)
- ・エシカル消費を各々が意識していくことで多くの問題が解決されると思います。(20代 男性)
- ・エシカル消費は、消費行動に気をつけていくきっかけになると考える。(20代 男性)
- ・意識してみようと思った。(20代 女性)
- ・これからの生活で大切なものである。(20歳未満 女性)
- ・もっと自分の行動を見直したい。(20歳未満 男性)
- ・これからも地球で暮らしていく中で大切なものである。(20歳未満 女性)
- ・エシカル消費をすることで無駄を生み出す手間が省けると考えます。(20歳未満 女性)
- ・エシカルの言葉の意味は、完全に理解していませんが、なるべく買った物は廃棄する事なく消費するように心がけているつもりです。(70歳以上 男性)
- ・エシカル、あまり理解できていません。(60代 女性)
- ・エシカル消費は、志は立派だと思うが、今の経済状態では難しいのではないかと思います。道徳、倫理観を高める教育によってしか高められないと思う。(50代 男性)
- ・無関心ではなく、ちょっとだけ気にかけてる、くらいのスタンスで今後も意識していくつもりです。(50代 女性)
- ・一人ひとりが自分事として考えられるように、私自身も、もっと心掛けるようにしたい。
(20代 女性)
- ・自分ができることを続けていこうと思いました。(20代 女性)
- ・これからの時代を生きていくためには必要なことだと思う。(20歳未満 女性)
- ・一人ひとりが防災やエシカル消費を意識することが大切だと思った。(20歳未満 女性)

○ エシカル消費の実践

- ・マイバッグを持参し、地元で買い物をするようにしている。(70歳以上 女性)
- ・環境、地域に配慮した買い物をする。(20歳未満 男性)
- ・次世代へつなぐ意識で何か一つでも協力可能なら実践する。(プラごみ、ペットボトルの専用回収など) (50代 女性)
- ・エコバッグを持ち歩く。(20歳未満 女性)
- ・自分なりに出来る範囲で実践しているが、まだまだ足りないと思っている。(70歳以上 女性)
- ・詰め替え用を利用して、エシカルになるかなと思っている。(70歳以上 女性)

- ・なるべくゴミの日は袋の中にコンパクトに詰めるように心掛けている。ゴミ袋も無駄にならないのでスーパーでは消費期限の迫っているものからとるようにしている。食品が廃棄にならないように。(50代 女性)
- ・出来ることから取り組むことが大事である。(20歳未満 女性)
- ・マイバッグを持参して買い物に行っている。(20歳未満 女性)
- ・負担にならない程度でエシカル消費に取り組むべきだと思う。(20代 女性)
- ・私達ができる限りのことはするようにしている。(20代 女性)
- ・自分の生活に余裕が出来たら、積極的にエシカル消費に向けて行動すべきだ。(20代 男性)
- ・常に日頃から「エシカル消費」に関わっていることに貢献するようにする。(20代 男性)
- ・次の世代が安心して暮らすことができるよう、無理のない範囲でできることに取り組んでいきたいと考えています。(60代 男性)
- ・エシカル消費は、自分の体調や都合がつくかぎり、なるべく生活に取り入れています。今後も継続したいと思います。(40代 女性)
- ・コンビニなどでもエシカル商品というのがあるから、すぐ食べるのならそういうものを積極的に取りに行きたいなと思いました。(20歳未満 女性)
- ・レジ袋削減には協力している。(20歳未満 男性)
- ・マイバッグを使用するなど、手軽にできることは続けて行きたい。(20代 女性)
- ・フードロスに気をつけている。(60代 女性)
- ・リサイクルなどに協力する。(40代 女性)
- ・洋服の破棄について、環境に負荷がかかっていることを広く知ってほしい。すぐ、破棄せず、家族間で着回したり、最後は、バス足拭きや、ぞうきんなどで使い終わらせている。(40代 女性)
- ・自分のことから取り組む。(50代 女性)
- ・地元のおいしい肉・魚・野菜を食べて、元気に過ごすことが健康の秘訣です。続けることで、地球にやさしい生活になっていたらみんなハッピー！(50代 女性)

○ エシカル消費の普及・啓発

- ・エシカル消費については、マイバッグは大分持参する人が増えているようですが、食品の手前取りやエコマークなど認証マーク製品の選択、地産地消等の買物意識はまだまだだと思われませんが、どのような普及推進が必要なののでしょうか？(70歳以上 女性)
- ・エシカル消費が食品に表示されているコンビニがあるので、マスコミがエシカル消費をさらに広めるべきだと思った。(30代 男性)
- ・エシカル消費を知っている方、多くないように思うのですが、広報等を使ってみてはどうでしょうか。(70歳以上 女性)
- ・エシカル消費の行動はしていても、エシカル消費の言葉が伝わっていない。(70歳以上 男性)

○ その他

- ・環境や作っている人たちのことをなるべく考えて生産している会社のものを使いたいと思っている。(70歳以上 女性)
- ・今まで日本の消費生活で物にあふれた環境や大量のゴミの山を目にするたびに本当に必要なものだけを最小限手に入れ、物に振り回されない生活を目指していきたいと思う。防災や災害時のことにも通じるのではないかと思う。(60代 女性)
- ・物を大事に使い、なんでも買わないで手作りしようと思う。梅干しとか漬物とか。また畑で野

- 菜なんぞ下手でも作ろう。(70歳以上 女性)
- ・世の中、値上げが多く、消費者自身の生活に余裕が無くなっているため、エシカル消費を心掛けるのが難しい人が増えていると思う。(30代 女性)
 - ・コストを意識した時、バランスが難しい。(30代 女性)
 - ・やってあたり前、というレベルまで浸透していると考える。(40代 男性)
 - ・食品に関してフードロスが多すぎると考えています。特に飲食店で大量の食品が余ってしまう。人が食する為のオーダー以外の食品ロスが多い。(60代)
 - ・ひとりひとりの心がけも大事だがやはり家族全員が同じ気持ちで協力して、必要なものをその時その時揃えて、消費が早い物は考えて買い、無駄にしないように心がけるようにしたい！！ ※一番大事なことは自分の体の健康を常に保つこと。(70歳以上 女性)
 - ・一人だけでなく、全員で共有し、実践することが重要だと思う。(20代 男性)
 - ・エシカル消費は節約にもつながる。(40代 女性)
 - ・保育所ですが、毎日、プラスチック製買い物袋が必要と言っている。(洗い物を入れるため) プールバッグなどに入れば必要ないと思うが、行政機関などではエシカル消費の推進は行っていないのかと疑問に思っている。(30代 女性)
 - ・個々の生き方・生活を見直すことと同時に地球温暖化に歯止めがかからない経済活動の在り方を根本から見直さないと私たちの未来はないと思う。(70歳以上 男性)
 - ・以前、ランチに行った店でエシカルについてイベントが開催されていて知った。古い物の再利用や素材を使った商品などユニークな物、おしゃれな商品も多く、楽しく学ぶことができた。かわいい傘も購入した。(ペットボトルからできたもの) (50代 女性)
 - ・今後、意識して実践する。(60代 女性)
 - ・食品ロスを無くす。オーガニック製品を使う、選ぶ。プラスチック製品を抑える。(70歳以上 男性)
 - ・エシカル消費は、一人ひとりの日常の心掛けが、つながっていくものだと思うので、無理をせず、継続していきたい。(50代 女性)
 - ・南砺市に住む人は、よく「週末は、金沢で買い物をしていた」と言う人が多い。持続可能な社会を考えると、地元富山で買い物などしてほしい。(40代 男性)
 - ・能登半島地震が起きてから、モノの大切さを実感し、エシカル消費をより心がけたいと思った。
(20歳未満 女性)
 - ・消費は身近な存在であり、老齢に分かり易い用語で普及するように考えていただきたい。使い捨て梱包材などスーパーマーケットの販売手法をみなおしていけば良い。(60代 男性)
 - ・プラ削減 (20歳未満 女性)
 - ・過剰な包装や無駄な容器の見直しをして、ゴミの増加にも気を付けたい。使い捨てやプラゴミを減少するための企業努力をもっとすべきだと思う。(60代 女性)
 - ・一人ひとりの行動の成果は小さいが、多くの方が取り組むことで、大きな成果になることを啓発してほしい。(60代 男性)
 - ・食べ物のムダ、廃棄などすごく心が痛みます。買い物でよく目にするのが奥から商品を取られる姿ですが、その必要がない近日常に消費する予定であれば賞味期限の近いものからとったり、例えば学校の給食も残さず食べることの大切さの教育など日頃から意識して行動しないと何も変わらないと思う。まずは自分の行動を見直すことを個々にしていく必要があると思う。
(40代 女性)
 - ・家庭での食品ロスがないように、必要な分だけ買うことを意識したほうが良い。(20歳未満 女性)
 - ・社会的課題に取り組む事業者には、協力、消費を応援したいと思う。(70歳以上 女性)
 - ・食品ロスを少なくするように心がけている。(70歳以上 女性)

- ・マイバッグ持参するようになり、スーパーでは万引きが増加しているという事を事業者からよく聞きます。人手不足のため（品出しでいそがしい）対策されていないということもあり、マイバッグは利用しにくいなど感じてしまいます。手持ちの小さいバックだけにして入店したりして自由に商品を選びにくくなっている点はデメリットですし、万引被害額も価格転嫁されていくのではと思っています。（60代 女性）
- ・畑で野菜を育てる。（70歳以上 女性）
- ・生産者の姿を想像するようにしている。環境にやさしい商品に興味があるようにもなった。（60代 女性）
- ・エシカル消費は、環境保全のために重要だと感じている。（20代 男性）
- ・持続可能な社会の実現に向けてエシカル消費は良い取り組みだと思う。（20代 男性）
- ・自分さえよければという考え方を持っている人が多いのを何とかしなければならない。（40代 男性）
- ・日頃から、地元の新鮮な野菜を購入して、地産地消を心掛けようと思います。（40代 女性）
- ・大切だと思う。（20代 女性）
- ・小さいことでもみんなが意識する事が大事。（40代 男性）
- ・日常で、できることはしているが、日々生活に追われ、なかなか実行にうつせないのが現実です。（50代 女性）
- ・もっと心がけたい。（20歳未満 女性）
- ・食品、衣類など廃棄しない事を目標に 上手な消費を心がける！（60代 女性）

その他

- ・もっと自覚して勉強する。（70歳以上 女性）
- ・個人の自由意志に任せるのではなく、ある程度強制的に執行すべき。（40代 男性）
- ・能登半島地震直後は、防災の意識があり、見直しが必要だと思っていたが、時間が経つと薄らいできている。日頃から、エシカル消費を実践していくことで、防災へ結びつくのなら、まずそこから続けていければよいと思う。（40代）
- ・防災やエシカルは、大切なことなので、出来る事はしていきたいと思っている。（50代 男性）
- ・どちらも普段の生活の中で情報の入手や準備ができるよう、気軽にできる試みがあるといいと思う。（40代 女性）
- ・防災やエシカル消費に対する関心や認知度はまだまだ低いと感じられるので、認知度を上げるための更なる教育や研修などの実施が必要だと思う。（70歳以上 男性）
- ・がんばりたいです。（20歳未満 男性）
- ・意識が薄いからもう少し考えを深めたい。（20代 女性）
- ・今後は防災対策、エシカル消費を行うべきである。（20代 男性）
- ・これから意識しなくてはいけない。（20代 男性）
- ・自分で出来ることをするべきだと思った。（20歳未満 女性）
- ・いいね。（20歳未満 女性）
- ・とてもためになりました。（20歳未満 男性）

大災害への備えについて ～ 地域や家庭の防災力を高めよう！ ～

富山県消費者協会・消費生活研究グループ連絡協議会（令和6年6月）

<調査の目的>

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、これまで比較的災害が少ないとされてきた富山県内でも震度5強を観測するなど、甚大な被害に見舞われました。

今回の震災を機に、私たちは、災害への備え・対応などについて、一人ひとりが改めて考え、取り組んでいく必要があります。

この調査は、災害に対する意識や備え等を把握し、地域や家庭の防災力向上、安全・安心な消費生活を送るための検討・参考資料とすることを目的に行うものです。

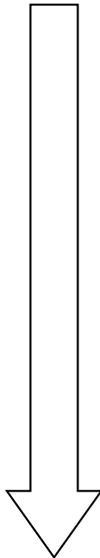
ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

<回答方法>

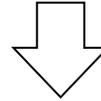
次のどちらかの方法を選んでお答えください。

なお、回答いただいた内容は統計的に処理し、個人の情報を公表したり、調査の目的以外に使用することはありません。

①この調査票により回答



②インターネットにより回答



下記QRコードまたは下記サイトURLよりお答えください。

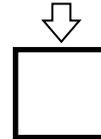
(QRコード)



(サイトURL)

<https://www.tomisyokyo.org/questionnaire>

※ に○印をつけて、この調査票をお出しく下さい。



- ・全部で7ページあります。当てはまる番号の□に✓印をつけてください。
- ・「その他」を選択された場合、()内に具体的な内容をご記入ください。

あなた自身についてお聞きします。(記入漏れにご注意ください。)

- ・年代 ① 20歳未満 ② 20歳代 ③ 30歳代 ④ 40歳代
 ⑤ 50歳代 ⑥ 60歳代 ⑦ 70歳以上
- ・性別 ① 男性 ② 女性 ③ その他

- ・職業 ① 給与生活者 ② 自営・自由業 ③ 家事従事者
④ 学生 ⑤ 無職 ⑥ その他 ()
- ・家族構成 ① 自分のみ ② 自分を含め2人 ③ 自分を含め3人以上
- ・住居の形態 ① 戸建 ② 集合住宅 ③ その他 ()
- ・お住まいの市町村 () 市・町・村)
- ・お住まいの地域 (該当するものすべて)
 - ① 平野部 (市街地) ② 平野部 (郊外)
 - ③ 海沿い (海の近く) の平地 ④ 海沿い (海の近く) の段丘・台地等
 - ⑤ 山沿い ⑥ 山間地
 - ⑦ 川のそば

I 令和6年能登半島地震に関して

問1 能登半島地震による被害の有無や影響等についてお答えください。

(1) ご自宅 (賃貸アパート・下宿・寮等を含む) について (該当するものすべて)

- ① 建物の被害
- ② 敷地の被害 (塀の倒壊、液状化等)
- ③ 家具・家電等の転倒、破損等 (収納物の落下等を含む)
- ④ 断水
- ⑤ 停電
- ⑥ ガスの停止 (自動遮断機能による一時停止を除く)
- ⑦ その他 ()
- ⑧ 特に被害はなかった

(2) ご自身について (該当するものすべて)

- ① 負傷・体調悪化
- ② 指定された避難場所や避難所に一時避難した
- ③ 指定された避難場所や避難所以外の場所に一時避難した
- ④ 指定された避難場所や避難所に1日以上避難した
- ⑤ 指定された避難場所や避難所以外の場所に1日以上避難した
- ⑥ 電車やバス等が止まり、帰宅できなかった
- ⑦ 地震発生時、勤務中だったので避難誘導等の災害対応にあたった
- ⑧ 地震発生時、北陸地方以外の場所にいたので、特に影響はなかった
- ⑨ 地震発生時、北陸地方にいたが、特に影響はなかった。
- ⑩ その他 ()

問2 能登半島地震によって、あなたは物質的な面や精神的な面でどのような影響を受けましたか。(4つまで)

- ① これまでの生活を見直すきっかけとなった
- ② 防災意識・対策の低さに気づいた
- ③ 一層の節電・節水を心がけるようになった
- ④ 近所づきあいの大切さに気づいた
- ⑤ 常に災害に対する不安を抱くようになった
- ⑥ 消費の自粛やイベント(二十歳の集い、結婚式、スポーツ大会、お祭りなど)の中止・延期等で影響を受けた
- ⑦ スーパーやコンビニ等の商品の売り切れや入荷不足等で困った
- ⑧ 観光客の減少で影響を受けた
- ⑨ 思いがけない人から安否の連絡があった
- ⑩ その他 ()

II 災害・防災の意識などについて

問3 あなたの住む地域は災害に対し安全だと思いますか。(1つ)

- ① 安全
- ② ある程度安全
- ③ ある程度危険
- ④ 危険
- ⑤ わからない

問4 あなたの住む地域で心配だと感じている災害は何ですか。(4つまで)

- ① 大地震・液状化
- ② 強風・台風
- ③ 豪雨・洪水
- ④ 地滑り・土砂崩れ
- ⑤ 豪雪・雪崩
- ⑥ 寄回り波・高波・津波
- ⑦ 大火災、山火事
- ⑧ 原子力発電所からの放射性物質や放射線漏れ
- ⑨ その他 ()
- ⑩ 不安を感じている災害はない

問7 あなたのお宅では、災害時に備えた食品や飲料水の家庭備蓄として何日分を準備していますか。

※ 非常用の食品や飲料水は、最低3日分、できれば1週間分が必要とされています。

※ 家庭で食品や飲料水を無理なく災害時に備える方法として「ローリングストック」があります。いつも食べている食品を少し多めに買い置きして、食べたならその分を買い足し、貯蔵するもので、飲料水なども同様です。特別なものを買う必要がなく、簡単に備蓄でき、賞味期限切れで廃棄してしまう食品ロスを防ぐことにもなります。

(1) 飲料水 (1つ)

- ① 1週間分以上 ② 3～6日分 ③ 2日分
④ 1日分 ⑤ 準備していない

(2) 食品 (1つ)

- ① 1週間分以上 ② 3～6日分 ③ 2日分
④ 1日分 ⑤ 準備していない

問8 あなたのお宅では、大型の家具・家電等の転倒・落下防止の備えは、どの程度していますか。(1つ)

- ① 大部分固定している
② 一部しか固定していない
③ 転倒等のおそれがある大型の家具・家電がない
④ 転倒等のおそれがある大型の家具・家電があるが、固定していない

問9 お住まいの地域のハザードマップ(*)の内容を知っていますか。(1つ)

(*)ハザードマップとは、自然災害(洪水、土砂災害、津波等)の被害を予測して地図上に表示したもの

- ① わかりやすくまとめられており、役に立てたい
② 内容がわかりづらい、または難しい
③ 全く読んでいない
④ 配布されていない、または知らない

問10 お住まいの地域の防災マップ(*)の内容を知っていますか。(1つ)

(*)防災マップとは、災害発生時の避難経路や避難所などの避難関連情報を地図上に書き込んだもの

- ① わかりやすくまとめられており、役に立てたい
② 内容がわかりづらい、または難しい
③ 全く読んでいない
④ 配布されていない、または知らない

問11 豪雨、台風、地震などの時の気象や河川、避難等に関する情報を入手するために、どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。(該当するものすべて)

- ① テレビ ② ラジオ ③ インターネット上のニュース
④ 防災アプリ ⑤ SNS (X (旧 Twitter)、LINE、Facebook など)
⑥ 行政(市町村)からの防災メール ⑦ 行政(国・県・市町村)ホームページ

- ⑩ 女性の視点に立った避難所運営などの防災施策
- ⑪ デジタルに不慣れな人にも配慮した防災情報の提供
- ⑫ その他 ()

VI エシカル消費について

※この設問は、「エシカル消費」の認知度を把握するために、継続的に聞きしているものです。

問15 持続可能な社会の実現に向け、私たち消費者は、人や社会、地域、環境など周囲に配慮した「エシカル消費(倫理的消費)」を推進することが求められています。

あなたは、エシカル消費という言葉を知っていますか。(1つ)

- ① 意味まで理解している
- ② おおむね理解している
- ③ 聞いたことがある
- ④ 知らない

問16 「エシカル消費」に関する次の具体的な行動のうち、あなたが実践しているものはどれですか。(該当するものすべて)

- ① マイバッグを持参する
- ② 必要なものを必要な量だけ買う
- ③ 購入後すぐに食べる食品は手前から取るよう心がけている
- ④ エコマーク、グリーンマークなど認証マークのついた製品や、フェアトレード製品(*)を選ぶように心がけている
(*)生産者の生活に配慮した公正な価格で、継続的に買い取る取引をされた製品
- ⑤ 地産地消を心がけ、地元で生産されたものを買う、地元で買物をする
- ⑥ 被災地や福祉作業所などの商品を購入する
- ⑦ 電気や水を節約して大切に使う
- ⑧ リサイクル、アップサイクル製品を買う
- ⑨ 寄付付き製品を買う
- ⑩ 宅配便で再配達を減らすよう工夫している
- ⑪ その他 ()
- ⑫ 特に心がけていることはない

防災やエシカル消費に関して、あなたの考えを自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせ先
 富山県消費者協会 (県民共生センター内)
 TEL 076(432)5690

大災害への備えについて
～地域や家庭の防災力を高めよう！～
調査報告書
(令和6年12月)

富山県消費者協会

〒930-0805

富山市湊入船町6-7（県民共生センター内）

TEL 076-432-5690

FAX 076-432-5693